

令和8年度

業 務 概 要

秋田県林業研究研修センター

目 次

1	位 置	1
2	沿 革	1
3	組織体制	2
	(1) 組織の概要	2
	(2) 職 員 数	2
	(3) 業 務 分 担	2
4	概 要	3
	(1) 用地・施設	3
	1) 用 地	3
	2) 主要施設	3
	(2) 令和8年度当初予算	3
	(3) 主催会議等	4
	1) 試験研究の運営管理のための会議	4
	2) 「秋田県林業トップランナー養成研修」の運営管理のための会議	4
	3) 行事・研修	4
5	試験研究	5
	(1) 令和8年度試験研究課題・令和7年度終了研究課題一覧	5
	1) 政策研究、配当等による研究・事業	8
	2) 外部資金を活用した試験研究（受託による共同研究）	21
	① 企業等からの委託研究	21
	② 科学研究費助成事業（特定外部資金）	22
	3) 役割分担、現物受領による共同研究	26
	4) 令和7年度終了研究課題	27
6	普及研修事業	29
	(1) 令和8年度実施事業一覧	29
	1) 事業内容	30
7	技術支援	34
	(1) 委員委嘱	34
	(2) 研修等講師派遣	34
	(3) 視察・見学対応	38
8	研究成果等の発表・広報	38
	(1) 学会誌掲載	38
	(2) 学会発表	39
	(3) 特定母樹（スギ）の指定	40
	(4) 報告書等	40
	(5) 雑誌等への投稿	41
	(6) 新聞掲載・テレビ放送	41
9	職員の研修受講	42

参考資料

1	秋田県林業研究研修センター中長期計画（計画期間：R4年度～R13年度） （R8.3改訂）から抜粋	43
2	次代検定林一覧	48

1 位 置

秋田県秋田市河辺戸島字井戸尻台47番地2

2 沿 革

- ◎ 秋田県林業試験場（大館市）
 - 昭和23年 木材の高度利用を図るため、秋田県木材工業指導所を大館市に設置。
 - 昭和27年 林木育種の試験を行うため、県木材工業指導所に森林部を設け、秋田県林業試験場と改称。
 - 昭和36年 材料から商品開発まで一貫した研究を行うため、木工試験部門を県工業試験場に移管し、木材試験場を民間に委譲。
 - 昭和40年 技術研修と機械化推進のため、林業研修所および林業機械化センター併設。

- ◎ 秋田県林木育種場（河辺郡雄和町）
 - 昭和36年 本格的に育種研究を行うため、秋田林業事務所豊島林木育種事業駐在所発足。
 - 昭和39年 地方機関として秋田県林木育種場となる。

- ◎ 秋田県林業センター（河辺郡雄和町）
 - 昭和49年11月 研究の一元化を図るため、秋田県林業センター建設基本計画策定される。
 - 昭和51年 4月 林業センター建設に着手。
 - 昭和52年 7月 林業試験場・林業研修所・林木育種場を廃止し、秋田県林業センター発足。

- ◎ 秋田県林業技術センター（河辺郡河辺町）
 - 平成元年10月 バイオテクノロジーによる研究を強力に進めるため新林業センター建設に着手。
 - 平成2年10月 秋田県林業技術センター発足。
 - 平成10年 9月 秋田県林業技術センター創立50周年記念式典を開催。

- ◎ 秋田県森林技術センター（河辺郡河辺町）
 - 平成12年 4月 森林生態系の保全と森林資源の利用を総合的に推進するため、秋田県森林技術センターに改称

- ◎ 秋田県農林水産技術センター森林技術センター（秋田市河辺戸島）
 - 平成18年 4月 公設試験研究機関（農林水産系）の組織統合により、秋田県農林水産技術センター森林技術センターに改称

- ◎ 秋田県森林技術センター（秋田市河辺戸島）
 - 平成24年 4月 秋田県農林水産技術センター廃止により、秋田県森林技術センターに改称

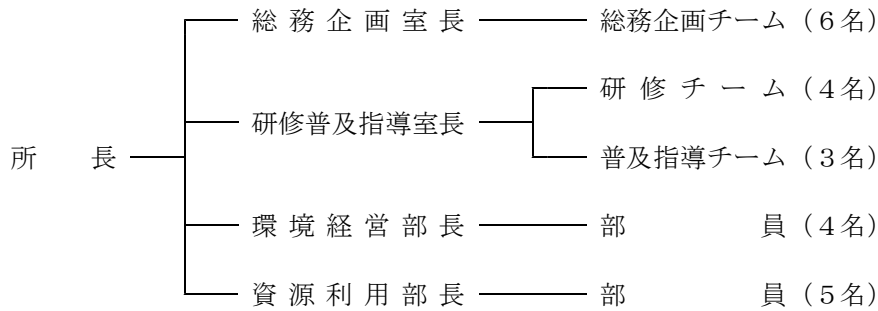
- ◎ 秋田県林業研究研修センター（秋田市河辺戸島）
 - 平成26年 4月 研修・普及、人材育成を一体的に推進する研修普及指導室を新設し、秋田県林業研究研修センターに改称
 - 平成27年 4月 秋田県林業トップランナー養成研修（秋田林業大学校）開講

 - 平成30年 3月 高性能林業機械実習棟竣工
(ハーベスタ、フォワーダ、グラップル、油圧ショベル)

3 組織体制

令和8年4月1日現在

(1) 組織の概要



(2) 職員数

区 分	事務職員	技術(研究)職員	現業職員	計
所 長		1 (1)		1
総務企画室	3	2	2	7
研修普及指導室		8		8
環境経営部		5 (5)		5
資源利用部		6 (6)		6
計	3	22 (12)	2	27

※ ()内は研究職で内数

(3) 業務分担

室・部	業 務 内 容	職 名	氏 名
	・センターの総括	所 長	真 崎 博 之
総務企画室	・センターの副総括、総務企画室の総括	室 長	和 田 覚
総務企画チーム	・班の総括、所内調整、人事・服務に関すること ・歳入・歳出、予算・決算に関すること ・歳入・歳出、予算・決算に関すること ・研究企画・評価、広報、連絡調整に関すること ・公用車の運転・車両管理に関すること ・採種徳園等圃場管理に関すること	チームリーダー 主 幹 副 主 幹 専 門 員 技 能 主 任 技 能 主 任	能 登 匡 塚 本 賢 嵯 峨 智 子 澤 田 智 志 菅 原 弘 幸 信 太 正 樹
研修普及指導室	・研修普及指導室の総括	室 長	村 川 晋
研修チーム	・班の総括、林業大学の進行管理に関すること ・林業大学の研修等に関すること ・研修施設及び資機材の整備・管理に関すること ・研修生の募集、予算・物品管理に関すること	チームリーダー シニアエキスパート 副 主 幹 主 査	木 村 明 憲 成 田 義 人 佐 藤 衛 佐 藤 綾 子
普及指導チーム	・班の総括、林業普及指導の総括に関すること ・林業普及指導員育成に関すること ・関係団体指導、普及指導の広報に関すること	チームリーダー シニアエキスパート 専 門 員	佐 藤 博 美 小 坂 琢 也 春 日 進
環境経営部	・部の総括	部 長	沼宮内 信 之
	・森林機能保全及び森林防災に関する研究 ・自然再生事業及び森林モニタリングに関すること ・森林施業及び森林保護に関する研究 ・生物多様性及び森林病虫害対策に関する研究	主任研究員 専 門 員 研 究 員 研 究 員	新 田 響 平 長 岐 昭 彦 福 沢 朋 子 丹 羽 奎 太
資源利用部	・部の総括	部 長	田 村 浩 喜
	・種苗生産及び林木育種に関する研究 ・特用林産（キノコ）及び林木育種に関する研究 ・特用林産（キノコ）に関する研究 ・種苗生産及び林木育種に関する研究 ・特用林産（キノコ）に関する研究	主任研究員 主任研究員 専 門 員 専 門 員 研 究 員	千 葉 信 隆 村 田 政 徳 菅 原 冬 樹 佐 藤 博 文 久 保 智 裕

4 概 要

(1) 用地・主要施設

1) 用 地

(単位：h a)

区 分	面 積
採 穂 園	1.80
採 種 園	23.56
クローン集植所	1.20
苗 畑	1.00
試 験 用 地	4.02
建 物 用 地	2.18
防風林その他	24.74
計	58.50

2) 主要施設

(単位：m²)

名 称	面 積	構 造
管理棟	773.58	木造二階建て
研究棟	2,104.16	鉄筋コンクリート2階建
バイオ関係育苗棟	230.00	鉄骨造平屋建
きのこ栽培棟	98.60	鉄筋コンクリート平屋建
車庫棟	131.60	鉄骨造平屋建
種子・作業棟	248.43	木造平屋建
機械棟	251.10	鉄骨造平屋建
堆肥舎	72.00	鉄筋コンクリート平屋建
管理用倉庫	181.80	鉄骨造平屋建
実習棟	154.02	木造平屋建
機械実習棟	450.00	木造平屋建
計	4,695.29	

(2) 令和8年度当初予算

(単位：千円)

項 目	当初予算額(事業費)	摘 要
(1) 管理運営費	38,616	
① 管理運営費	37,905	事務管理経費、光熱水費等
② 研究施設等整備費	0	研究施設整備経費
③ 研究推進活動費	711	研究機関連絡調整経費等
(2) 研究活動費	9,740	
① 政策研究費	6,740	P 5 NO.1～5の計
② 外部資金活用研究費	3,000	P 6 2)①～②の計 (科研費含む)
(3) 各課担当の調査研究費	36,081	P 5 NO.6～13の計
(4) 秋田県林業トップランナー養成事業費	104,861	P29 NO.1、2の計
(5) 普及研修事業費	4,102	P29 NO.3、4の計
計	193,400	

※ 計は(1)～(5)の合計

(3) 主催会議等

1) 試験研究の運営管理のための会議

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所
林業研究研修センター研究課題内部評価委員会	R 7. 5.20	第2庁舎高機能会議室
林業研究研修センター研究運営協議会	R 7. 7.25	林業研究研修センター

2) 「秋田県林業トップランナー養成研修」の運営管理のための会議

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所
秋田県林業技術者養成協議会	R 8. 1.19	林業研究研修センター

3) 行事・研修（令和7年度実績）

行 事・ 研 修	開 催 日	開 催 場 所	参加人数
令和7年度秋田県林業トップランナー養成研修開講式	R 7. 4. 8	プラザクリプトン	82人
市町村職員及び地域林政アドバイザー研修	R 7. 6.30～7.2	林業研究研修センター	21人
林業普及指導職員研修（伐木造材基礎）	R 7. 8. 5	林業研究研修センター	19人
林業研究研修センター参観デー	R 7.10. 4	林業研究研修センター	46人
J-クレジット制度活用研修	R 7.10. 7	プラザクリプトン	56人
森林・林業技術研修	R 7.10.21	大仙市協和市民センター	28人
林業普及指導員研修（特用林産）	R 7.11.26	林業研究研修センター	24人
林業技術交換研修会	R 8. 1.20～21	プラザクリプトン	97人
秋田アグリフロンティア育成研修・秋田林業大学校・ 秋田漁業スクール長期研修令和7年度合同修了式	R 8. 3.13	プラザクリプトン	115人

5 試験研究

(1) 令和8年度試験研究課題・令和7年度終了研究課題一覧

1) 政策研究、配当等による研究・事業

(単位：千円)

番号	課題・事業名	研究期間	当初予算額	担当	頁
1	次世代秋田スギの種子増産に向けた採種園の最適化	R8～R12	751	資源利用部	8
2	炭素吸収量最大化を目指す高齢スギ人工林の管理手法の開発	R7～R11	794	環境経営部	9
3	シイタケ生産の経営基盤を強化する新たなキノコの導入と栽培システムの構築	R 6～R10	754	資源利用部	10
4	再造林オプションとしての広葉樹林施業技術の刷新	R 5～R 9	4,078	環境経営部	11
5	多様な樹種構成による秋田の海岸防災林造成技術の開発	R 4～R 8	363	環境経営部	12
政策研究費（県単）計			6,740		
6	森林の防災機能の定量的評価に関する試験研究 【治山事業事務費 森林環境保全課(治山・林道チーム)担当】	R 5～R 9	837	環境経営部	13
7	森林生態系長期大規模モニタリングサイトの観測 【秋田県水と緑の森づくり推進事業 普及啓発事業 森林環境保全課(調整・森林環境チーム)担当】	R 5～R 9	455	環境経営部	14
8	森吉再生事業に関する調査・研究 【秋田県水と緑の森づくり推進事業 普及啓発事業 森林環境保全課(調整・森林環境チーム)担当】	R 5～R 9	678	環境経営部	15
9	ニホンジカによる植生変化の解明と密度濃淡推定法の確立 【森林整備課(県税)担当】【秋田県水と緑の森づくり推進事業 普及啓発事業 森林環境保全課(調整・森林環境チーム)担当】	R 5～R 9	644	環境経営部	16
10	針広混交林化事業地モニタリング 【秋田県水と緑の森づくり推進事業 普及啓発事業 森林環境保全課(調整・森林環境チーム)担当】 ※7～10に係る人件費	R 7～R 9	649	環境経営部	17
			8,410	環境経営部	
11	再造林優良種苗確保事業 CNに挑戦する再造林拡大事業 R7繰 NZに挑戦する再造林拡大事業 R8 【森林資源造成課(再造林推進チーム)担当】	H29～R12	18,994 (10,800) (8,194)	資源利用部	18
12	種子採取事業 【優良種苗確保事業 種子採取事業 森林資源造成課(再造林推進チーム)担当】	S46～	5,439	資源利用部	19
13	抵抗性クロマツの作出及び採種園整備 【森林病虫害防除対策事業 松くい虫防除対策事業 森林環境保全課(森林管理チーム)担当】	R6～R10	2,021	資源利用部	20
配当研究・事業費計			36,081		

2) 外部資金を活用した研究課題（受託による共同研究）

① 企業等からの受託研究

（単位：千円）

番号	課 題 名 【委託元】	研究期間	当初予算額	担 当	頁
1 4	マイタケ用菌糸活性剤（開発品）の評価	R8	500	資源利用部	21
	受 託 研 究 費 計		500		

② 科学研究費助成事業（特定外部資金）文部科学省

（単位：千円）

番号	課 題 名 【委託元】	研究期間	研 究 費 (直接経費)	担 当	頁
1 5	渇水緩和・洪水調整の視点からみたブナ林 土壌の保水機能の二面的定量評価 【森林総研】	R 5～R 8	200	環 境 経 営 部	22
1 6	菌類保全を実現させる保全遺伝学研究への 挑戦 【東京大学】	R 5～R 9	300	資 源 利 用 部	23
1 7	溪畔林の温室効果ガス収支の高精度推定 ～土壌中酸化還元環境・地形・樹種影響を 考慮～【森林総研】	R 7～R11	500	環 境 経 営 部	24
1 8	絶滅危惧樹木を救う鍵：菌根菌の埋土胞子 寿命と休眠打破条件の解明	R 8～R10	1,500	資 源 利 用 部	25
	科学研究費助成事業費計		2,500		

3) 役割分担、現物受領による共同研究

（単位：千円）

番号	課 題 名 【共同研究 契約先・同意先】	研究期間	研 究 費	担 当	頁
1 9	県産広葉樹材の利用基盤整備に向けた肥大 成長の季節変動パターンの解明	R 7～R 8	900 (現物受領)	資源利用部	26

4) 令和7年度終了研究課題

(単位：千円)

番号	課 題 名 【研究費の種類】	研究期間	研 究 費	担 当	頁
1	低コスト造林を実現する秋田スギの開発 【県単予算】	R 3～R 7	512	資 源 利 用 部	26
2	スマートセンシング [※] によるコンテナ苗の安定生産システムの開発 【農業DXを牽引する公設試デジタル化推進事業（02 デジタルデータ活用研究推進事業）農林政策課（研究推進班）配当】	R 4～R 7	662	資 源 利 用 部	27

1) 政策研究、配当による研究・事業

1	課 題 名	次世代秋田スギの種子増産に向けた採種園の最適化		
研究期間：R8～R12		当初予算額		751千円
担 当：資源利用部 主任研究員 千葉 信隆 資源利用部 専門員 佐藤 博文		財 源 内 訳	一 般	751千円
<p>[研究目的]</p> <p>スギ特定母樹ミニチュア採種園から安定した種子供給を図るため、採種園を構成している次世代秋田スギの特定母樹20品種と国が開発した特定母樹19品種の種子生産に関する特性を明らかにする。</p>				
<p>[全体の研究計画]</p> <p>(1) 着花特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採種園毎に本県の特定母樹20品種と国の特定母樹19品種の着花量の調査を行う。 <p>(2) 種子特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採種園毎に本県の特定母樹20品種と国の特定母樹19品種の種子生産量及び品質調査を行う。 <p>(3) 採種園の最適化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着花特性と種子特性を基にミニチュア採種園の造成を進め、採種量の増産を図る。 <p>[令和8年度の研究計画]</p> <p>(1) 着花特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニチュア採種園(4-7-T4)に植栽されている18品種の着花量の調査を行う。 <p>(2) 種子特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニチュア採種園(4-7-T3)から採取した23品種の種子生産量及び品質調査を行う。 				

2	課 題 名	炭素吸収量最大化を目指す高齢スギ人工林の管理手法の開発	
研究期間：R7～R11		当初予算額	794千円
担 当：	環境経営部 研究員 福沢 朋子 環境経営部 主任研究員 新田 響平	財 源 内 訳	一 般 794千円
<p>[研究目的]</p> <p>従来から秋田のスギは晩成な成長を示すと指摘されてきたが、実際、近年の研究結果から秋田のスギ人工林は100年を超えても成長が衰えない可能性が示された。このことから、伐期延長後においても炭素吸収源としての機能を期待できると考えられる。しかし、現行の収穫表は高齢スギ人工林に対応しておらず、炭素吸収量などが正しく推定できないという課題がある。本研究では高齢なスギ人工林（80年生以上）の成育状況の多点調査を実施し、既存のデータと合わせて収穫表の調製を行うことで、高齢林の炭素吸収量を明らかにするとともに、任意の林地における炭素吸収量を考慮した最適な伐期を提示する。また、樹冠長率などの各種指標と個体成長量などとの関係を解析し、伐期延長のための判断基準を示す。</p>			
<p>[全体の研究計画]</p> <p>(1) 高齢スギ人工林データを反映した収穫表の作成 (2) 伐期決定と伐期延長のための判断基準を提示 (3) 高齢林施業管理指針を整備</p> <p>[令和8年度の研究計画]</p> <p>(1) 高齢スギ人工林データを反映した収穫表の作成 ・ 高齢スギ人工林（おおむね80年生以上）の生育状況調査10林分以上を実施する。 (2) 伐期決定と伐期延長のための判断基準を提示 ・ 調査履歴のある3林分において樹冠や根はりといった個体毎の指標と成長量の関係を調査する。 (3) 高齢林施業管理指針を整備</p>			
<p>[令和7年度までの研究成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢スギ人工林の過去の調査地の現況調査を8箇所で行った。そのうち、2箇所で行った生育状況調査を実施した。 ・ 新規の調査区を設定するため、森林GISを用いて、県内の高齢スギ人工林の位置を抽出した。 			

3	課 題 名	シイタケ生産の経営基盤を強化する新たなキノコの導入と栽培システムの構築		
研究期間：R6～R10		当初予算額 754 千円		
担 当：資源利用部 研究員 久保 智裕 資源利用部 主任研究員 村田 政穂 資源利用部 専門員 菅原 冬樹		財 源 内 訳	一 般 724 千円	
			財産収入 30 千円	
<p>[研究目的]</p> <p>菌床シイタケは、本県の農山村地域経済を支える主要な複合経営作目として定着している。その一方で、生産者の高齢化や資材、光熱費の高騰により、経営の実態は厳しく、菌床シイタケ産業を取り巻く環境は非常に深刻な状況となっている。そのための対策のひとつとして、コストの削減と経営リスクの分散が可能なシイタケ生産を複合的に補完する新たなキノコの導入が求められている。本研究では秋田県の菌床シイタケ栽培を複合的に補完するキノコとして、ハタケシメジとアラゲキクラゲの栽培技術を構築し、生産者に普及することを目的とし試験を行う。</p>				
<p>[全体の研究計画]</p> <p>(1) ハタケシメジとアラゲキクラゲの栽培に適した培地組成の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シイタケ栽培施設において、ハタケシメジとアラゲキクラゲを複合的に栽培する上で、コストと収量の両面で最適な培地組成を明らかにする。 <p>(2) アラゲキクラゲの選抜育種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収量が多く、形態に優れたアラゲキクラゲを選抜育種する。ハタケシメジは2001年に秋田県で品種登録したあきたLD11号を以下の試験に使用する。 				
<p>[令和8年度の研究計画]</p> <p>(1) ハタケシメジとアラゲキクラゲの栽培に適した培地組成の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スギとコナラのおが粉とその配合割合の検証試験を行い、低コストで高収量になる培地基材及び栄養体、培地添加剤を明らかにする。 <p>(2) アラゲキクラゲ選抜育種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野生株5個体以上収集し、これまでに収集した菌株を交配試験に供する。 				
<p>[令和7年度までの研究成果]</p> <p>(1) ハタケシメジの栽培培地組成の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スギとコナラのおが粉と各種栄養体の配合割合の検証試験を行った。 ・アラゲキクラゲについて、培地組成（栄養体及び培地基材）の検証試験を行った。 <p>(2) アラゲキクラゲ選抜育種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野生株5個体を収集し、昨年度収集した野生株を栽培試験に供した。 				

4	課 題 名	再造林オプションとしての広葉樹林施業技術の刷新	
研究期間：R5～R9		当初予算額	4,078千円
担 当	環境経営部 研究員 福沢 朋子 資源利用部 主任研究員 村田 政穂	財 源 内 訳	一 般 4,061千円 諸 収 入 17千円
<p>[研究目的]</p> <p>再造林樹種として、広葉樹の利活用を促進するため、用材生産を目的とした全く新しい広葉樹林の施業技術を開発する。また、市場ニーズの把握と既存資源の個体データベース化により需給を「見える化」し、川上・川下相互の収益性の向上を図る。これらにより、資源利用の好循環を産み出すことでカーボンニュートラルの実現に貢献する。</p>			
<p>[全体の研究計画]</p> <p>(1) 広葉樹生育適地の解明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間50林分以上の広葉樹林生育データを収集し、広葉樹生育適地のピンポイント抽出技術を開発する。 <p>(2) 新しい広葉樹造林技術の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小面積・低密度植栽指針の策定 ・剪定、整枝等による新しい広葉樹造林技術の開発 <p>(3) 感染苗の開発による施業技術の刷新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3樹種以上の菌根菌感染苗の開発 <p>(4) 資源現況と需給関係の「見える化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広葉樹個体データベースの構築及び運営管理の調整 			
<p>[令和8年度の研究計画]</p> <p>(1) 広葉樹生育適地の解明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田県内の落葉広葉樹について樹高、直径、枝下高、位置を測定する。広葉樹成育適地の解明をするため、GISを用いた地形解析を実施する。 <p>(2) 施業技術の刷新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整枝剪定試験の調査を実施する。 <p>(3) 需要と供給の見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材生産業者、広葉樹製材業者、2次加工業者に聞き取り調査を実施する。 			
<p>[令和7年度までの研究成果]</p> <p>(1) 広葉樹生育適地の解明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田県内の落葉広葉樹約1,792個体、樹種46種類について樹高、直径、枝下高を測定した。調査時の林齢は7年～96年の範囲であった。コナラの平均樹高は15m、平均枝下高は6mであった。 <p>(2) 施業技術の刷新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コナラ苗、ウダイカンバ苗への菌根菌接種試験を開始し、成長経過観察中。 ・整枝剪定試験では、ブナ苗木360本を対象に、無処理・中程度・強剪定の3処理区を設け、生育への影響を調査した。2025年時点の平均樹高は約196cmであり、処理区別の平均樹高は無処理199cm、中程度194cm、強選定196cmであった。現時点では剪定強度による樹高成長の顕著な差は認められていない。今後も継続して生育への影響を検証する予定である。 <p>(3) 需要と供給の見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の素材生産業者、製材業者、2次加工業者等を対象に広葉樹利用の実態についてヒアリングを実施した。その結果、広葉樹の素材供給量は少なく安定供給が難しいこと、製材や乾燥に対応できる事業者が限られていることが明らかとなった。また、家具製作等の2次加工業者では年間使用量が少なく、板材単位など少量での調達ニーズが高い傾向が確認された。 			

5	課 題 名	多様な樹種構成による秋田の海岸防災林造成技術の開発	
研究期間：R4～R8		当初予算額	363千円
担 当	環境経営部 主任研究員 新田 響平 環境経営部 研究員 丹羽 奎太	財源内訳	一 般 363千円
<p>[研究目的]</p> <p>沿岸域における防災林の健全化と高機能化に向け、海岸防災林への広葉樹導入指針を策定する。既存のクロマツ林のほか、海岸砂丘地に自生する樹種からなる広葉樹植栽地を調査し、植栽条件や限界を明確化するほか、風洞実験などにより防災機能の定量評価を実施する。これらにより、求められる機能に応じた防災林の造成計画の策定、既存防災林の改良技術を提示する。</p>			
<p>[全体の研究計画]</p> <p>(1) クロマツ及び広葉樹の生育状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸の類似した立地環境に造成されたクロマツ及び広葉樹生育状況調査を実施する。 <p>(2) シミュレーションによる海岸林防風機能等の定量化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロマツ及び広葉樹の樹形を計測するとともに、代表的なパターンを決定する。 ・数値シミュレーションにより、海岸林の防風機能等の定量的に評価する。 <p>(3) マップ化技術の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立地環境因子からクロマツ地位級を推定する技術を開発する。 ・クロマツ-広葉樹のデータセットをもとにクロマツの地位級等を指標とした広葉樹の導入指針を作成する。 <p>(4) フローチャートの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求められる機能に応じた樹種の選択、造成方針、目標林型の判断を容易にするフローチャート作成する。 <p>[令和8年度の研究計画]</p> <p>(1) クロマツ及び広葉樹の生育状況調査</p> <p>(2) クロマツ及び広葉樹の樹形調査</p>			
<p>[令和7年度までの研究成果]</p> <p>(1) クロマツ及び広葉樹の生育状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・およそ90林分においてクロマツ及び広葉樹の生育状況調査を実施した。その結果、一部の広葉樹種(ケヤキ・エゾイタヤ)の生育についてはクロマツの生育状況から予測できる可能性が示された。 ・クロマツの生育予測のため、約105林分及び約40個体で枝階痕や成長錐による生育状況調査を実施した。 <p>(2) 風洞実験による海岸林防風機能等の定量化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値シミュレーションに用いるため、密度調整試験地で毎木調査を実施し、林分構造を明らかにした。 <p>(3) マップ化技術の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロマツの地位指数の算出とその推定に向けた解析を実施した。その結果、汀線からの距離と海側の林帯幅、標高といった要素が地位指数推定に有効である可能性が考えられた。 			

6	課 題 名	森林の防災機能の定量的評価に関する試験研究	
研究期間：R5～R9		当初予算額 837千円	
担 当：環境経営部 主任研究員 新田 響平 環境経営部 部長 沼宮内 信之		財 源 内 訳	(配 当) 837千円 (配当元：森林環境保全課 治山・林道チーム)
事業名：治山事業（公共事業）事務費			
<p>[研究目的]</p> <p>近年、豪雨の規模が大きくなり、線状降水帯などが頻繁に現れるようになった。このことから治山治水事業の重要性が高まってきている。また、海岸防風林については、震災後からより防災機能を高めた施工がおこなわれるようになってきた。しかしながら、森林の構造や施業と公益的機能との関係について定量的に評価される事例は多くない。これらの関係が明らかになることで、より多様な環境に適用可能な技術として定着し、県民生活の安全安心にも貢献しうると考えられる。このようなことから、本研究課題では、公益的機能の定量的評価を行い、治山林道技術の向上を目的とした研究を実施する。</p>			
<p>[全体の研究計画]</p> <p>(1) 本数調整伐が森林の土壌保水量等に与える影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施業履歴の異なる長坂試験地の3流域において、水文観測・水位観測、雨量観測を実施するとともに林分構造、土壌並びに土壌水分量を調査し、施業に伴う植生等の環境変化が土壌水分環境に与える影響を明らかにする。 <ul style="list-style-type: none"> ①降水量及び水流出量の観測 ②森林の林分構造状況調査 ③土壌（水分）調査 <p>(2) 秋田県のモデル海岸林の実証とモニタリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の技術を駆使したモデル的海岸林を造成し、その防災機能等をモニタリングすることにより、より高度で地域にあった海岸林造成技術を開発する。 <ul style="list-style-type: none"> ①秋田のモデル海岸林造成試験地の設定 ②モデル海岸林の防災機能モニタリング <p>(3) 治山研究協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治山林道担当の技術力向上と林業研究研修センターの試験研究フィールド確保に必要な協力体制の強化。 <ul style="list-style-type: none"> ①治山・林道研究に向けた調査協力の実施 			
<p>[令和8年度の研究計画]</p> <p>(1) 本数調整伐が森林の土壌保水量等に与える影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降水及び水流出量の観測継続 ・森林の生育状況調査、土壌（水分）調査 <p>(2) 秋田県のモデル海岸林の実証とモニタリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田のモデル海岸造成試験地の設定、モデル海岸林の防災機能モニタリング <p>(3) 治山研究協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治山林道担当と林業研究研修センターによる、試験研究に対する協力体制の強化、試験研究情報提供。 			
<p>[令和7年度までの研究成果]</p> <p>(1) 本数調整伐が森林の土壌保水量等に与える影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施業履歴の異なる長坂試験地の3流域において、水流出量の観測、林内の踏査を実施するとともに調査区の復元などを実施した。 <p>(2) 秋田県のモデル海岸林の実証とモニタリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の事業地の成育状況調査等を実施し、これまでの広葉樹造成の成育成績などについて30林分で調査を実施した。また松枯れ後、枯死木を放置したクロマツー広葉樹混交海岸林の防風機能の評価を実施した。 			

7	課 題 名	森林生態系長期大規模モニタリングサイトの観測	
研究期間：R5～R9		当初予算額 455千円	
担 当：環境経営部 研究員 丹羽 奎太 環境経営部 主任研究員 新田 響平		財 源 内	配 当 455千円 (配当元：森林環境保全課 調整・森林環境チーム)
事業名：秋田県水と緑の森づくり推進事業(普及啓発事業)			
<p>[研究目的]</p> <p>「水と緑の基本計画」(秋田県：2009)では、森林について、人の活動と調和を図りながら体系的に保全し、人と自然とが共生できる環境を創り出すことを目標に掲げており、生態系の維持・回復、生物多様性の確保を図るとしている。その過程で、森林の状態や変化の動向を継続的に調査し、関連するデータを県民にわかりやすく提供していく必要がある。そこで、秋田県の自然環境を代表するブナ林に大規模なモニタリングサイトを設置し、その現状や動態を、長期的かつ科学的に明らかにし、気候変動や大気汚染等の影響、生物種の変化など森林生態系を監視するためのシステムを構築する。</p>			
<p>[全体の研究計画]</p> <p>(1) 事前踏査および概況調査によるモニタリング計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概況調査を行い、調査項目、調査手法、調査体制等に関する計画の作成を行う。 <p>(2) サイトの設置とモニタリングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地形測量とサイトのメッシュ化、林分構造、更新、大気環境等に関するモニタリングを実施する。 <p>(3) データの集計と分析、公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの集計、図化、分析を行い、得られた結果についてパンフレット、HP等による公開を行う。 <p>[令和8年度の研究計画]</p> <p>(1) 森林動態モニタリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイト内のプロットを明示した杭のメンテナンスを行う。 <p>(2) 生物多様性に関する調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイト内の生物相調査を行う。 ・サイト内に生息する希少生物の遺伝的多様性の解明。 <p>(3) その他関連調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費2課題に係る調査を予定。 			
<p>[令和7年度までの研究成果]</p> <p>(1) サイトの設置とモニタリングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10m×10m×743メッシュ=7.43haのモニタリングサイトを設置した。令和元年度から3年度にかけて、胸高周囲長(GBH)15cm以上の全立木についてナンバーリングを行い、位置座標、樹種、階層区分、樹冠状態の判別及びGBHの測定を行った。全立木本数は7,340本(988ha/ha)で19科30種が確認された。本数の48%にあたる3,525本(475本/ha)がブナ、次いでサワグルミ、ホオノキ、ハウチワカエデ、ヤチダモの順で多かった。階層別に高木層、亜高木層、低木層を形成する個体の本数頻度分布は逆L字型で、若い個体ほど多く、こうした階層構造から世代交代(更新)は順調であると推定された。 ・令和6年度から7年度にかけて、全立木のGBHの再測定等を行った。その結果、個体数は減少していたのに対し、胸高断面積合計及び地上部バイオマスはわずかに増加していたことが判明した。 <p>(2) データの集計と分析、公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果について、「森吉山麓高原森林生態系モニタリングのあらまし」としてパンフレットにまとめ、公開した。また関連する研究成果について、2022年環境化学学会や東北森林科学会等、各種媒体において発表した。 			

8	課 題 名	森吉再生事業に関する調査・研究	
研究期間：R5～R9		当初予算額	678千円
担 当：	環境経営部 専門員 長岐 昭彦 環境経営部 部長 沼宮内 信之	財 源 内 訳	(配 当) 678千円 (配当元：森林環境保全課 調整・森林環境チーム)
事業名：	秋田県水と緑の森づくり推進事業(普及啓発事業) (秋田県水と緑の森づくり税事業)		
[研究目的] 森吉山麓高原自然再生事業におけるブナ林再生に向けた関連調査、モニタリングおよび植栽用苗木の養苗を行う。			
[全体の研究計画] (1) ブナ植栽木のモニタリング ・再生事業で植栽されたブナについて、生残・生長等の成育状況、被害の種類、程度などについてモニタリング調査を行い、事業へのフィードバックを図る。 (2) ブナの種子生産量の予測 ・翌年の結実状況について予測し、落下種子量および冬芽を調査した。 (3) 樹林化の実態把握 ・UAVによる空撮を行い事業箇所全体の樹林化を把握する。			
[令和8年度の研究計画] (1) ブナ植栽木のモニタリング ・モニタリング調査を継続するとともに、UAVによる空撮を行う。 (2) ブナの種子生産量の予測と苗木の育苗・管理 ・上記の調査を継続して行う。			
[令和7年度までの研究成果] (1) ブナ植栽木のモニタリング ・森吉山麓高原自然再生事業地において2006年に実施したブナ島状植栽16区画を対象に、2007～2024年の18年間のモニタリングデータを用いて植栽処理と立地条件が生残・成長に与える影響を階層モデルにより評価した。混合モデル解析の結果、植栽処理(植栽本数・盛土・斜植・堆肥)の効果に処理間で一貫した有意差は認められなかった。一方、土壌型別の比較では表層グライ系土壌区画の樹高成長が他の土壌型より有意に高く、立地条件の重要性が示された。以上から、今後の再生事業では植栽処理の改善より土壌調査に基づく適地選定を優先することが有効と考えられる。また、並行して実施された約100箇所の植栽事業全体の樹林化状況および苗木の生残・成長の把握が次の重要な課題である。 (2) ブナの種子生産量の予測と苗木の育苗・管理 ・シードトラップによる落下種子量の調査および冬芽調査に基づく豊凶の予測を行った。その結果、令和7年度の開花数は0.4/m ² で、健全堅果は確認されず(0個/m ²)、凶作であった。冬芽調査の結果から、令和8年は豊作が予想される。 (3) 樹林化の実態把握 ・事業箇所の一部においてドローン空撮を実施してオルソ画像を作成し、樹林化の状況を確認した。			

9	課 題 名	ニホンジカによる植生変化の解明と密度濃淡推定法の確立	
研究期間：R5～R9		当初予算額 644千円	
担 当：環境経営部 研究員 丹羽 奎太 環境経営部 研究員 福沢 朋子 事業名：秋田県水と緑の森づくり推進事業(普及啓発事業) (秋田県水と緑の森づくり税事業)		財 源 内 訳	(配 当) 644千円 (配当元：森林環境保全課 調整・森林環境チーム)
<p>[研究目的]</p> <p>秋田県ではシカの定着・繁殖が進んでいると推測され、近い将来農林業への被害の顕著化が懸念される。対策の要となる被害の予測や予防には、生息密度などの情報が欠かせない。侵入初期の低密度下で広範囲の生息密度を把握するには、多大な労力と経費を要するため、より簡易な方法が求められる。シカは生息密度が高くなるにつれ、食圧によって段階的に植生変化を生じさせる。逆に植生変化を把握することで、生息密度の濃淡を示す方法が既に明らかとなっている。しかし、この方法は高密度の地域を対象としているため、本県のような低密度下の状況で用いるには改良の必要がある。そこで、侵入初期の定着地で発生する植生変化の特徴を明らかにし、本県でも対応可能なシカ生息密度の濃淡推定方法を確立する。</p>			
<p>[全体の研究計画]</p> <p>(1) 生息密度の高い地域の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シカが定着し密度が高くなる条件の1つに、生息環境の厳しい積雪期に越冬可能な箇所(越冬地)の存在があげられる。これまで確認された越冬地を対象に生息状況を調べ、県内において生息密度の高い地域を把握する。 <p>(2) 嗜好性植物と被害状況の解明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生息密度の高い地域において食圧による植生の経時的変化を明らかにすると共に、嗜好性植物の種類を特定する。また、若齢のスギ人工林を中心に、県内の被害状況を解明する。 <p>(3) 秋田県版シカ密度の濃淡推定法の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・侵入初期の定着地で発生する植生変化の特徴を明らかにし、本県に適応したシカ生息密度の濃淡推定方法を確立し、越冬地など定着・繁殖の進む地域において密度濃淡マップを作成する。 <p>[令和8年度の研究計画]</p> <p>(1) 嗜好性植物の解明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生息密度の高い地域を中心に、DNAメタバーコーディング解析を用いて、嗜好性植物の種類を特定する。 <p>(2) 秋田県版シカ密度の濃淡推定法の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高密度地域を対象に痕跡調査を行い、Deer Impact Score (DISco)を算出する。 			
<p>[令和7年度までの研究成果]</p> <p>(1) 植生調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シカの生息が推定される地域に調査区を設定し植生調査を行った。全調査区で116種を確認した。そのうち、葉の摂食が確認されたのはハイイヌツゲとチマキザサのみで、樹皮の摂食が確認されたのはフジとミズナラのみであった。 <p>(2) 嗜好性植物の解明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内4地点から採集された糞サンプル(n=4)を用い、DNAメタバーコーディング解析を行ったところ、合計17科17種の植物が検出された。スゲ属やケンポナシ等、過去の食痕調査では未確認の種類が新たに検出された。また、秋田市の1地点において、スギ苗木に対する剥皮被害が確認された。 			

10	課 題 名	針広混交林化事業地モニタリング	
研究期間：R7～R9		当初予算額 649千円	
担 当：環境経営部 専門員 長岐 昭彦 環境経営部 研究員 福沢 朋子 事業名：秋田県水と緑の森づくり推進事業(普及啓発事業) (秋田県水と緑の森づくり税事業)		財 源 内 訳	(配 当) 649千円 (配当元：森林環境保全課 調整・森林環境チーム)
<p>[研究目的]</p> <p>「秋田県水と緑の森づくり税条例」に基づき、森林環境や公益性を重視した森づくりを目指すため、生育不良なスギ人工林や管理の行き届かないスギ人工林を、広葉樹との混交林に誘導する針広混交林化事業が平成20年度から実施されている。一般に広葉樹の成長はスギに比較して遅い。これまでの調査報告における誘導伐からの経過年数は最も長いものでも8年であり、広葉樹の成長を評価する上では決して長いとはいえない。現在、最も長い事業地では令和6年度で16年が経過している。この段階で改めて調査することで事業効果をより高精度で評価できると考えられる。</p>			
<p>[全体の研究計画]</p> <p>(1) 現況確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・混交林化の進捗状況を把握するため、事業地の現況調査を実施する。 <p>(2) 調査区の設定と調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り過去のモニタリング調査区の復元を実施し、残存するスギおよび定着している広葉樹の生育状況から混交林化の進捗を把握する。 ・スギ人工林に広葉樹が混交している非事業地の現況調査を実施し、事業地の進捗状況を評価 <p>(3) 侵入広葉樹の推定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業地選定等の参考とするため、スギ人工林への侵入広葉樹の量をスギの地位や立地などから予測する手法を開発する。 <p>[令和8年度の研究計画]</p> <p>(1) 現況確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業地5カ所以上で現況調査を実施する。 <p>(2) 調査区の設定と調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1)における事業地で調査を実施する。 ・スギ人工林に広葉樹が混交している非事業地3カ所以上で踏査・選定し、調査を実施する。 <p>(3) 侵入広葉樹の推定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1) および(2) 並びに過去のデータを集計する。 			
<p>[令和7年度までの研究成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業地15箇所現況調査を実施し、森吉山東ノ又の分析を実施した。 ・森吉山東ノ又では、間伐直後から広葉樹の前生稚樹の侵入量が多い箇所ほど、その後の広葉樹の成長量大きい傾向が確認された。また、間伐後も残存するスギについても、良好な成長が認められた。 			

11	事業名	再造林優良種苗確保事業	
事業期間：R8～R11		当初予算額	18,994千円
担当	資源利用部 主任研究員 千葉 信隆 資源利用部 専門員 佐藤 博文	財 源 内 訳	(配当) 18,994千円 (配当元：森林資源造成課 再造林推進チーム)
事業名	NZに挑戦する再造林拡大事業		
[事業の目的] 優れたスギ造林用育種種子や、近年ニーズが高い少花粉、特定母樹の種子生産を図るため、採種園の更新および新規造成を行う。また、造林樹種の多様化によるカラマツ採種園と、海岸マツ林を維持するため抵抗性クロマツの採種園を造成する。			
[全体の事業計画] (1) スギミニチュア採種園の造成 ・特定母樹0.25haの造成を行う。 (2) カラマツ採種園の造成 ・エリートツリーカラマツ採種園0.70haの造成を行う。 (3) 抵抗性クロマツ採種園の造成 ・拡大した抵抗性クロマツ採種園0.73haの造成を行う。			
[令和8年度の事業計画] (1) スギミニチュア採種園の造成 ・5-4区(3.00ha)中に特定母樹0.05haの造成を行う。 ・植栽予定の採種木の増殖、育苗を行う。 (2) カラマツ採種園の造成 ・4-8区(0.70ha)中にエリートツリー(特定母樹含む)0.16haの造成を行う。 (3) 抵抗性クロマツ採種園の造成 ・4-7区(0.73ha)中に抵抗性クロマツ0.04ha造成を行う。			
[令和7年度までの研究成果] (1) スギ通常型採種園の更新 ・3-6、3-7、4-1、4-2、4-6区計5.27haの更新を行った。 ・植栽予定の採種木の増殖、育苗を行った。 (2) スギミニチュア採種園の造成 ・少花粉7か所0.35ha、特定母樹9か所0.45ha、エリートツリー1か所0.05ha、雪害抵抗性3か所0.15haの新規造成を行った。 (3) 抵抗性クロマツ採種園 ・0.73haに拡大した。 (4) カラマツ採種園 ・0.70haの用地を整備し、採種木を植栽した(0.32ha)。接ぎ木増殖技術及びコンテナ育苗手法を検討した。			

12	事業名	種子採取事業
事業期間：S46～		当初予算額 4,565千円
担当：資源利用部 専門員 佐藤 博文 資源利用部 主任研究員 千葉 信隆		財源内訳 (配当) 4,565千円 (配当元：森林資源造成課 再造林推進チーム)
事業名：優良種苗確保事業		

[事業の目的]

優良種苗生産のため、スギおよびクロマツ精英樹採種園より種子を採取する。採取した種子については品質検査・販売を行うとともに、まきつけ量および幼苗育成に関する基礎資料を得る。

[令和8年度の事業計画]

(1)スギ：4-4、4-10、5-3区から80kgの精英樹種子、5-4区から5kgの少花粉種子、4-7区から5kgの特定母樹種子と5kgの雪害抵抗性種子を採取する。
(2)マツ：3-5区から0.5kgのクロマツ種子、4-11区から抵抗性クロマツ種子1.6kgと、抵抗性アカマツ種子0.5kgを採取する。

[令和7年度の事業実績]

・10月上旬～11月中旬に球果を採取し、温度25～30℃、湿度10%前後にて約10日間人工乾燥した。脱粒した種子を風選により精選した。

表-1 令和7年度育種種子生産量

樹種・品種	採種園名 (区)	面積 (ha)	本数 (本)	種子生産量 (kg)	単位生産量 (g/本)
スギ					
精英樹	4-12	4.19	1,584	43.0	27.1
特定母樹	4-7-T2	0.05	144	0.8	5.6
少花粉	5-4-2, 5-4-5	0.10	450	0.0	0.0
雪害抵抗性	4-7-S2	0.05	144	0.2	1.4
クロマツ					
精英樹	3-5	1.00	56	0.0	0.0
マツノザイセンチュウ抵抗性	4-7, 4-11	0.73	265	0.1	0.4
アカマツ					
マツノザイセンチュウ抵抗性	4-11	0.25	140	0.7	5.0

表-2 令和7年度精英樹混合貯蔵種子品質検査結果

樹種・品種	純量率 (%)	実重 (g/1000粒)	容積 (cc/1000粒)	発芽率 (%)	充実率 (%)	発芽効率 (%)	発芽勢 (%)
スギ精 ^{*1}	93.5	2.49	5.5	5.3	10.0	5.0	3.5
スギ特 ^{*2}	96.1	1.26	2.9	9.5	31.3	9.1	5.0
スギ少 ^{*3}	99.6	1.95	5.0	4.0	13.5	4.0	1.0
スギ雪 ^{*4}	99.2	1.61	4.1	11.0	18.3	10.9	4.8
クロマツ精 ^{*1}	99.7	19.02	35.4	79.3	93.5	79.1	22.3
クロマツ抵 ^{*5}	99.7	14.12	26.5	73.0	93.5	72.8	37.0
アカマツ抵 ^{*5}	99.7	13.08	24.3	65.3	93.0	65.1	23.3

注) *1精英樹 *2特定母樹 *3少花粉 *4雪害抵抗性 *5マツノザイセンチュウ抵抗性

- 検査期間：令和8年1月8日～1月22日（純量率、実重、容積）
：令和7年11月26日～令和8年2月18日（発芽率、充実率、発芽勢）
- 供試料量：スギ・マツそれぞれ20kg当たり1試料を無作為抽出
- 純量率：ゴミ等不純物を除いた正常な種子の割合
- 充実率：発芽率（%）＋未発芽率（%）
- 発芽効率：発芽率（%）×純量率（%）／100
- 発芽勢：置床後14日以内の発芽率（%）

1 3	課 題 名	抵抗性クロマツの作出及び採種園整備																	
研究期間：R6～R10		当初予算額 1,830千円																	
担 当：資源利用部 専門員 佐藤 博文 資源利用部 主任研究員 千葉 信隆 資源利用部 主任研究員 村田 政穂		財 源 内 訳	(配 当) 1,830千円 (配当元：森林環境保全課 森林管理チーム)																
事業名：森林病虫害防除対策事業(松くい虫防除対策事業)																			
[研究目的] マツノザイセンチュウによる松枯れは、年々被害地域が拡大しているうえ、被害量も高水準で推移している。このため、海岸の松くい被害跡地対策として抵抗性クロマツの作出を行い、採種園の充実を図る。																			
[全体の研究計画] (1) 激害地からの抵抗性候補木選抜 ・被害地から抵抗性候補木を選抜し、種子採取と播種育苗を行う。 (2) 接ぎ木苗・実生苗に対する接種検定 ・抵抗性候補木由来の実生苗や接ぎ木苗に接種検定を行う。 (3) 抵抗性採種園の整備 ・東北育種場より新たな抵抗性マツの配布を受け、採種園の充実を図る。 (4) 菌根菌を活用した新たな苗木生産技術の開発 ・クロマツ苗の活着や初期成長の向上に効果的な菌根菌感染苗生産技術を開発する。																			
[令和8年度の研究計画] (1) 激害地からの抵抗性候補木選抜 ・被害地から抵抗性候補木を選抜し、種子採取と播種育苗を行う。 (2) 実生苗に対する接種検定 ・令和5年に選抜した抵抗性候補木14系統の実生苗(1回目接種)及び、令和6年に接種検定を行った抵抗性候補木11系統の内、生存している実生苗(2回目接種)に接種検定を行う。 (3) 抵抗性採種園の整備 ・東北育種場より新たな抵抗性マツの配布を受け、採種園の充実を図る。 (4) 菌根菌を活用した新たな苗木生産技術の開発 ・クロマツ苗の活着や初期成長の向上に効果的な菌根菌を探索する。																			
[令和7年度までの研究成果] (1) 候補木の選抜状況と一次検定の状況 (R7)																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 15%;">選抜数</th> <th style="width: 15%;">1回目接種</th> <th style="width: 15%;">2回目接種</th> <th style="width: 15%;">合格数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>母樹数</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">14</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>供試苗数</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">1,515</td> <td style="text-align: center;">42</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> </tbody> </table>						選抜数	1回目接種	2回目接種	合格数	母樹数	12	14	8	4	供試苗数	—	1,515	42	8
	選抜数	1回目接種	2回目接種	合格数															
母樹数	12	14	8	4															
供試苗数	—	1,515	42	8															
(2) マツノザイセンチュウ抵抗性品種(二次検定合格木) ・秋田(男鹿)クロマツ151号 ・秋田(若美)クロマツ222号 (4) 菌根菌を活用した新たな苗木生産技術の開発 ・アミタケのクロマツ菌根苗を作成し、菌根菌未感染苗と成長を比較した結果、アミタケの感染によってクロマツ苗の初期生長が促進された。																			

2) 外部資金を活用した試験（受託による共同研究）

① 企業等からの受託研究

14	課 題 名	マイタケ用活性剤（開発品）の評価		
研究期間：R8		研究費		500千円
担 当：資源利用部 専門員 菅原 冬樹		財 源 内 訳	その他(受託) 500千円	
資源利用部 主任研究員 村田 政穂			(委託元：セトラスホールディングス株式会社)	
資源利用部 研究員 久保 智裕				
研究組織：セトラスホールディングス株式会社 フードサイエンス開発室				
<p>[研究目的]</p> <p>セトラスホールディングス株式会社が開発したマイタケ用活性剤について、収量性など定量的な評価を行う。</p>				
<p>[全体の研究計画]</p> <p>本研究では、マイタケ生産者が高品質なマイタケを安定して生産することができるように、開発品の有用性について検証する。</p> <p>[令和8年度の研究計画]</p> <p>開発品と既存活性剤の効果を比較するため、以下の2項目について試験を実施する。</p> <p>(1) 菌糸伸長測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菌糸成長促進効果を検証する。 <p>(2) 栽培試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培に要する日数および発生量について調査する。 				

② 科学研究費助成事業（特定外部資金）（文科省）

15	課 題 名	渇水緩和・洪水調整の視点からみたブナ林土壌の保水機能の二面的定量評価	
研究期間：R5～R8		研究費 200千円	
担 当：環境経営部 主任研究員 新田 響平		財 源 内 訳	200千円
研究組織：(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所			その他(受託)
事業名：科学研究費助成事業 基盤研究C		(委託元：国立研究開発法人 森林研究・整備機構)	
<p>[研究目的]</p> <p>ブナ林土壌は保水機能が高いと古くからいらわれてきたが、意外なことに実証研究は非常に少ない。そこで本研究ではブナ林土壌の土層厚の多点測定データと微地形単位別の土壌物理生データから保水機能を渇水緩和機能と洪水調整機能の二つの側面から定量的に評価する。</p>			
<p>[全体の研究計画]</p> <p>(1) ブナ林土壌の渇水緩和機能と洪水調節機能の定量化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブナ天然林内で土層強度検査棒やTDR土壌水分計を用いた多点測定を実施し、微地形と土層厚、現場土壌含水率との関係を解析する。また微地形単位毎に土壌断面調査を実施し、採取した土壌円筒試料の用いた透水性・保水性測定データを蓄積し、渇水緩和機能と洪水調節機能の定量化を行う。 <p>(2) ブナ林と草地の土壌保水能の定量比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブナ天然林に隣接する装置内で(1)と同様な測定を実施し、機能比較を実施する。 <p>(3) 樹高・胸高直径と土層厚との関係解析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブナ天然林相の毎木調査を実施して、樹高・胸高直径データを蓄積し、(1)で得られたデータとの関係を微地形単位毎に解析する。 <p>[令和8年度の研究計画]</p> <p>(1) ブナ林土壌の渇水緩和機能と洪水調節機能の定量化</p> <p>(2) ブナ林と草地の土壌保水能の定量比較</p> <p>(3) 樹高・胸高直径と土層厚との関係解析</p>			
<p>[令和7年度までの研究成果]</p> <p>(1) 樹高・胸高直径と土層厚との関係解析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森吉山麓高原に設定した森林動態長期モニタリング試験地において詳細調査区(2.04ha)を設定し、そのうち1.5haの樹高と直径の計測を実施した。 			

16	課 題 名	菌類保全を実現させる保全遺伝学研究への挑戦	
研究期間：R5～R9 担 当：資源利用部 主任研究員 村田 政穂 研究組織：東京大学大学院新領域創成科学研究科 (国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 三重大学 事業名：科学研究費助成事業 基盤研究A		財 源 内 訳	研 究 費 400千円 その他(受託) 400千円 (委託元：東京大学大学院新領域創成科学研究科)
<p>[研究目的]</p> <p>絶滅危惧種の外生菌根菌のトガサワラシヨウロとヤクタネシヨウロを対象に、①各集団の交配遺伝子の種類や多様性、構成比率を明らかにして絶滅リスクを評価し、②実験室での子実体発生を誘導する技術を完成させ、③その子実体から得られる胞子の交配実験によって交配可能な遺伝子型の組み合わせを特定し、④異なる遺伝子型を導入することによって集団内の交配成功率が向上するのかを明らかにする。</p>			
<p>[全体の研究計画]</p> <p>研究分担者として担当する研究は上記の②と③の試験になる。</p> <p>(1) ②の試験ではトガサワラシヨウロとヤクタネシヨウロの感染苗を無菌温室で2年程度育苗し、移植の刺激によって子実体の発生誘導を試みる。</p> <p>(2) ③の試験では②の試験で発生した子実体を用いて、子実体から胞子懸濁液を作成し、その懸濁液を混合したものを宿主に接種することで胞子の交配を促す。</p> <p>[令和8年度の研究計画]</p> <p>昨年度とは異なる地域(高知県)から採取したトガサワラシヨウロの子実体から胞子懸濁液を作成し、その懸濁液を混合したものを宿主に接種することで胞子の交配を促す。</p>			
<p>[令和7年度までの研究成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 三重県で採取されたトガサワラシヨウロの子実体から胞子懸濁液を作成し、その懸濁液を混合したものを宿主に接種することで胞子の交配を促した。 			

17	課題名	溪畔林の温室効果ガス収支の高精度推定～土壌中酸化還元環境・地形・樹種影響を考慮～	
研究期間：R7～R11 担当：環境経営部 主任研究員 新田 響平 研究組織：(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 事業名：科学研究費助成事業 基盤研究B		研究費	500千円
		財源内訳	その他(受託) 500千円 (委託元：国立研究開発法人 森林研究・整備機構)
<p>[研究目的]</p> <p>これまで生態系の温室効果ガス収支に計上されてこなかった吸収・放出源として、樹幹によるメタンの吸収と放出、渓流水からの温室効果ガスの放出がある。本研究では、これらを定量的に評価し、複雑な地形を持ち、多様な樹種からなる溪畔林生態系における集水域全体の年間温室効果ガスの収支を高精度で推定する。</p>			
<p>[全体の研究計画]</p> <p>(1) コアプロットの設定および森林動態の観測</p> <ul style="list-style-type: none"> 森吉ブナ長期大規模モニタリングサイトを調査地に集水域の主要構成種であるブナや溪畔林構成種であるヤチダモ、サワグルミ等が含まれるコアプロットを設定する。 <p>(2) 温室効果ガスの季節変動の観測</p> <ul style="list-style-type: none"> 直径5cm以上の樹木の毎木調査により年間成長量を測定するとともに、リタートラップにより樹種毎のリターフォール量を把握し、樹木による年間のCO₂吸収量を推定する。また主要な樹種および土壌表見での温室効果ガスの通年観測を実施する。さらに地下水位の季節変化を自動観測する。また渓流水における溶存温室効果ガス濃度を測定する。 <p>(3) 土壌中および樹幹中の酸化還元環境の測定手法の確立と測定</p> <ul style="list-style-type: none"> マイクロプロファイリングシステムを用いて、調査地土壌中内の酸化還元電位、pH、酸素、温室効果ガス濃度を測定し、空間変動評価に最適な測定手法を確立する。 <p>(4) 機械学習によるモデリング</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種調査でえられた環境因子(温度、地形、土壌、植生情報)を説明変数として、温室効果ガスの吸収量と放出量について機械学習による解析を実施する。これにより溪畔林集水域全体の温室効果ガス収支を高精度で予測する。 <p>[令和8年度の研究計画]</p> <p>(1) コアプロットの設定および森林動態の観測</p> <p>(2) 温室効果ガスの季節変動の観測</p> <p>(3) 樹高・胸高直径と土壌厚との関係解析</p>			
<p>[令和7年度までの研究成果]</p> <p>(1) 雨量等気象観測装置の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> モニタリングサイト周辺に雨量観測装置を設置(設置実施主体は森林総研東北)し、雨量の観測を実施した。 <p>(2) 地上部バイオマスの計算</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回目と2回目の毎木調査結果を基に、地上部バイオマス動態について検討した。その結果、約5年間で生育本数は減少していたが、地上部バイオマスは増加していた。 			

18	課 題 名	絶滅危惧樹木を救う鍵：菌根菌の埋土種子寿命と休眠打破条件の解明	
研究期間：R8～R10 担 当：資源利用部 主任研究員 村田 政穂 事業名：科学研究費助成事業 基盤研究C		財 源 内 訳	研究費 1,500 千円
			その他(受託) 1,500 千円
<p>[研究目的]</p> <p>菌根菌の埋土胞子を利用した絶滅危惧樹木の更新技術を確立するため、絶滅危惧樹木であるトガサワラの維持・更新に不可欠な菌根菌であるトガサワラシヨウロの埋土胞子の生存期間と休眠打破の条件を検証し、生理生態を解明する。</p>			
<p>[全体の研究計画]</p> <p>(1) 埋土胞子の生存期間の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トガサワラシヨウロの生存期間の検証 ・若年および成熟子実体由来の埋土胞子の保存性比較と形態観察 <p>(2) 休眠打破に必要な寄主条件の検証</p> <p>[令和8年度の研究計画]</p> <p>(1) 埋土胞子の生存期間の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トガサワラシヨウロの生存期間の検証 ・若年および成熟子実体由来の埋土胞子の保存性比較と形態観察 			

3) 役割分担、現物受領による共同研究

19	課 題 名	県産広葉樹材の利用基盤整備に向けた肥大成長の季節変動パターンの解明	
研究期間：R7～8 担 当：資源利用部 専 門 員 佐藤 博文 主任研究員 千葉 信隆		総 研 究 費 900千円 (現物受給による共同研究)	
共同研究契約先：公立大学法人 秋田県立大学 事 業 名：秋田県立大学産学連携・共同研究推進事業		財 源 内 訳	その他(受託) (委託元：公立大学法人 秋田県立大学)
[事業の目的] 県産広葉樹の資源量把握と有効利用を図るため、肥大成長に係る形成層活動停止期を木材組織学的に解明する。			
[全体の研究計画] (1) 試料採取 ・林業研究研修センター構内(秋田市河辺)に生育する広葉樹7種(散孔材：トチノキ、ホオノキ、カツラ、ポプラ、環孔材：クリ、コナラ、半環孔材：オニグルミ)の成木樹幹(各樹種3個体)から2週間おきに師部、形成層および木部を含むブロック試料を採取し、化学固定を行う。 (2) 葉のフェノロジー観察 ・上記広葉樹7種の試料採取と同時に葉の写真撮影を行い、個体毎に黄葉時期や落葉完了時期を特定する等の経時的な変化を記録する。 (3) 顕微鏡観察 ・(1)で採取した試料を樹脂包埋し、2～7μm厚の木口面切片を作製し、光学顕微鏡および共焦点レーザー顕微鏡下で形成層細胞の分裂の有無を観察し、各個体の形成層活動停止時期を明らかにする。また、共焦点レーザー顕微鏡および電子顕微鏡下で、分化中木部の有無や形成層細胞の内容物の変化も明らかにする。 (4) データ解析 ・各観察結果から、樹種間で形成層活動停止時期に差があるかを明らかにする。(2)と(3)の結果を同日時系列内で比較し、形成層活動停止時期と落葉時期との関連性の有無を明らかにする。また、(3)の顕微鏡写真から当年形成木部量を測定し、当年の肥大成長量と形成層活動停止時期との間に相関関係があるかどうかを明らかにする。			
[令和8年度の研究計画] (1) 試料採取 (2) 葉のフェノロジー観察 (3) 顕微鏡観察 (4) データ解析			
[令和7年度までの研究成果] (1) 試料採取 ・2025年11月から2週間おきに林業研究研修センター構内(秋田市河辺)に生育する広葉樹7種(散孔材：トチノキ、ホオノキ、カツラ、ポプラ、環孔材：クリ、コナラ、半環孔材：オニグルミ)の成木樹幹(各樹種3個体)から2週間おきに師部、形成層および木部を含むブロック試料を採取し、化学固定を行った。 (2) 葉のフェノロジー観察 ・上記広葉樹7種の試料採取と同時に葉の写真撮影を行い、個体毎に黄葉時期や落葉完了時期を特定する等の経時的な変化を記録した。			

4) 令和7年度終了研究課題

終了課題1	課題名	低コスト造林を実現する秋田スギの開発			
研究期間：R3～R7		研究費		512千円	
担 当：資源利用部 主任研究員 千葉 信隆 資源利用部 専門員 佐藤 博文		財 源 内 訳	一 般		512千円
[研究目的] 長く低迷している本県のスギ再造林率の向上を図るため、低コスト造林に適した品種（特定母樹＝秋田版エリートツリー、これまでの研究成果を参照）の開発を行う。また、各種遺伝子型解析によって品種本来の性能を引き出す効率的な利用を図り、種子供給の早期実現を目指す。					
[全体の研究計画] (1) 選抜増殖 ・特定母樹候補木を選抜するため、スギ検定試験林において30年次成長量、剛性、通直性を調査する。また、挿し木による増殖及び発根率を調査する。 (2) 成長及び雄花着花性調査 ・選抜地において、特定母樹候補木の自然着花性を調査する。また、候補木を増殖し、苗木の成長性、ジベレリン葉面散布による雄花着花性の調査を行う。 (3) 品種の確定及び遺伝子型解析 ・特定母樹の品種登録を行うとともに、遺伝子型を解析して家系情報を調査する。					
[研究成果] (1) 選抜増殖 ・東秋県28号スギ検定林における30年次成長量、剛性、通直性等諸特性に基づき、特定母樹候補木19個体を選抜し、挿し木による増殖及び発根率を調査した。 (2) 成長及び雄花着花性調査 ・東秋県28号スギ検定林から選抜、増殖した特定母樹候補木19個体について、選抜地での自然着花性の調査及びジベレリン葉面散布による挿し木苗の雄花着花性調査を行った。 (3) 品種の確定及び遺伝子型解析 ・特定母樹候補木について、挿し木発根性、苗木成長性、雄花着花性等調査結果に基づき、林野庁へ特定母樹として申請を行い、11個体が特定母樹に指定された。これにより令和元年度から開発した特定母樹は表-1のとおり20個体となった。これらについては、遺伝子型を解析し個体識別を行った。					
表-1 特定母樹一覧					
申請年度	系統名	指定番号	申請年度	系統名	指定番号
令和1年度	153雄勝10-10号	特定1-16	令和4年度	251雄勝10-17号	特定4-26
	153平鹿3-3号	特定1-17		251雄勝11-45号	特定4-27
令和2年度	202雄勝12-28号	特定2-37	令和5年度	282北秋田6-16号	特定5-33
	203由利1-9号	特定2-38		282山本3-12号	特定5-34
	203由利10-45号	特定2-39		283南秋田3-23号	特定5-35
	211南秋田4-10号	特定2-40		282仙北8-37号	特定5-36
	231雄勝9-27号	特定2-41	令和6年度	282北秋田4-1号	特定6-32
	231雄勝10-3号	特定2-42		283山本2-29号	特定6-33
	251雄勝16-14号	特定2-43		282由利12-37号	特定6-34
令和3年度	251雄勝16-10号	特定3-31		281仙北9-26号	特定6-35

終了課題2	課題名	スマートセンシングによるコンテナ苗の安定生産システムの開発	
研究期間：R4～R7		研究費 662千円	
担当：資源利用部 専門員 佐藤 博文		財 源 内 訳	その他(受託) 662千円 (配当元：農林政策課 研究推進班)
資源利用部 主任研究員 千葉 信隆			
事業名：農業DXを牽引する公設試デジタル化推進事業 (02デジタルデータ活用研究推進事業)			
[研究目的] 科学的知見を根拠とした野外の苗木の最適生産環境を明らかにし、スマートセンシングによる高品質なスギコンテナ苗の効率的な安定生産技術を開発し、生産現場に普及する。			
[全体の研究計画] スマートセンシング技術を用いて、スギコンテナ苗の安定生産システムを開発する。 (1) スマートセンシング技術を用いてコンテナ育苗時の外部環境(照度や温度、湿度)、コンテナ培地の温度と水分量及びスギの成長量等を計測、調査し、データの集積を行う。 (2) スギ挿し木時の環境(ハウス内温湿度)や挿し床の温度、水分含量及び発根率等を計測、調査し、データの集積を行う。 (3) (1)及び(2)の測定データを基にスギのコンテナ育苗や挿し木増殖に最適な条件を把握し、生産現場に普及する。			
[研究成果] (1) スマートセンシング技術を用いてコンテナ育苗時の外部環境(照度や温度、湿度)、コンテナ培地の温度と水分量及びスギの成長量等を計測、調査し、データの集積を行う。 ・スマートセンシング(みどりクラウド; NTT東日本)技術を用いてコンテナ育苗時の外部環境(照度や温湿度)及びコンテナ培地の温度と水分量を計測し、データの集積と解析を行った。その結果、培地の水分が15%以下になると、灌水による水分の回復と保水が難しくなることがわかった。 ・各種コンテナ容器(リブ型、スリット型)をそれぞれ育苗棚の東西南北いずれかの隅に配置して前項同様に環境データの集積と苗木の成長調査、解析を行った。その結果、南や西方向のコンテナ培地の温度は時間帯によって気温を上回る場合があること、スリットコンテナや白色コンテナは培地の温度上昇を抑制しうること、スリットコンテナは培地が乾燥しやすいことなどが明らかとなった。 (2) スギ挿し木時の環境(ハウス内温湿度)や挿し床の温度、水分含量及び発根率等を計測、調査し、データの集積を行う。 ・スギ挿し木コンテナ苗生産において、従来の方は発根苗をコンテナ容器に移植する作業をともなうことから負担が大きい。そこで作業の省力化を図るため、リブ型及びスリット型コンテナ容器と種々の挿し床用土を用いて直挿し試験を行い、最適な条件を検索した。 ・培地温度と水分について、従来の育苗箱に鹿沼土を入れた条件に近い環境は、リブ型容器にココピート75:パーライト25の挿し床を使用した場合であり、発根率は67%と最も高かった。 ・培地に混合する施肥量は発根に影響を及ぼし、10gと多い場合は発根率が低下した。 (3) (1)及び(2)の測定データを基にスギのコンテナ育苗や挿し木増殖に最適な条件を把握し、生産現場に普及する。 ・以上の知見及び研究成果については、県主催の再造林技術研修会や東北森林科学会第29回及び第30回大会において公表した。			

6 普及研修事業

(1) 令和8年度実施事業一覧

(単位：千円)

番号	事業名	実施期間	予算額 (当初)	担当	頁
1	「オール秋田で育てる」林業トップランナー養成事業	H26～	54,319	研修普及指導室	29
2	林業就業前研修生支援事業	H27～	50,542	研修普及指導室	30
3	林業普及指導研修補助事業	S58～	1,911	研修普及指導室	31
4	林業普及指導研修事業	S55～	2,191	研修普及指導室	32
	普及研修事業計		108,963		

1) 事業内容

1	事業名	「オール秋田で育てる」林業トップランナー養成事業												
事業期間：H26～		当初予算額		54,319千円										
担	当	研修普及指導室	研修チーム	チームリーダー	木村 明憲	シニアエキスパート	成田 義人	副主幹	佐藤 衛	主査	佐藤 綾子	財源内訳	繰入金	50,119千円
													使用料	4,158千円
													繰入金	42千円
[事業の目的]														
<p>本県の豊富な森林資源の活用を図り、林業を地域経済と雇用を支える産業として成長させるため、就業前の林業未経験者を対象に幅広い知識・技術とマネジメント能力等を習得する研修(秋田県林業トップランナー養成研修(愛称:秋田林業大学校))を実施し、将来の林業を担う若い林業技術者を養成する。</p>														
[令和8年度 事業の内容]														
(1)林業トップランナー養成推進事業														
<ul style="list-style-type: none"> 素材の低コスト生産を実践する若い林業技術者を養成するために平成27年度から開講した秋田林業大学校の運営方針について協議する「秋田県林業技術者養成協議会」を開催するほか、林業関係者等による秋田林業大学校サポートチームによる研修協力体制を整備する。 														
① 秋田県林業技術者養成協議会の開催														
ア 協議会委員：林業・木材産業関係団体、教育庁、東北森林管理局、県関係機関など。														
イ 協議内容：研修方針の検討、カリキュラムの検討、各分野の情報交換 (高校生の進路状況・林業の雇用情勢等)														
② 秋田林業大学校サポートチーム														
ア 構成員：林業・木材産業関係団体、林業機械メーカー等														
イ 活動内容：研修協力覚書締結(講師派遣、研修フィールドなど) 指導方法の検討、専門性向上研修(指導員養成研修)														
(2)林業トップランナー養成研修事業														
<ul style="list-style-type: none"> 研修(講義、実習等)を実施するほか、研修に必要な資機材の整備等や研修PR及び研修生募集などを行う。 														
① 研修資機材整備														
<ul style="list-style-type: none"> 研修資機材の導入等 														
② 普及啓発														
<ul style="list-style-type: none"> 研修ポスター、パンフ等の作成等 事業体及び高校等訪問活動等 														
③ 研修実施														
	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8		
研修生数	18	18	17	18	15	16	18	14	14	12	17	10		
〈内訳〉														
出身														
県内	17	17	14	18	12	16	18	14	14	12	15	9		
県外	1	1	3	0	3	0	0	0	0	0	2	1		
経歴														
高校新卒	15	16	12	17	15	16	16	12	12	8	14	10		
大学新卒	0	2	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0		
社会人	3	0	2	0	0	0	2	2	2	4	2	0		
性別														
男	15	17	15	17	15	15	16	14	12	12	16	10		
女	3	1	2	1	0	1	2	0	2	0	1	0		

2	事業名	林業就業前研修生支援事業				
事業期間：H27～		当初予算額	50,542千円			
担	当	研修普及指導室 研修チーム 副主幹 主査	佐藤 衛 佐藤 綾子	財源内訳	国庫 寄付金	50,142千円 400千円
<p>[事業の目的]</p> <p>秋田県林業トップランナー養成研修(愛称：秋田林業大学校。以下「秋田林業大学校」という。)を受講する研修生が研修に専念するための環境づくりを支援する。</p>						
<p>[令和8年度 事業の内容]</p> <p>(1)秋田県緑の青年就業準備給付金事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田林業大学校の受講に係る経費について給付金を支給する。 <p>① 給付金</p> <p>ア 給付要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則45歳未満で林業への就業意志があること ・常用の雇用契約を締結していないこと 等 <p>イ 支給人数 36名以内</p> <p>ウ 支給額 年間1人当たり1,419,000円(11ヶ月分) ※ 制度上は、年間上限 155万円</p> <p>② 推進事務費</p> <p>(2)秋田林業大学校研修生奨学金事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内金融機関からの寄附金により、秋田林業大学校の受講準備に係る経費について奨学金を支給する。 <p>① 奨学金</p> <p>ア 給付要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修に対する意欲が高く、模範的な林業技術者として期待されること ・審査会により選考された者であること <p>イ 支給人数 4名</p> <p>ウ 支給額 100,000円/年(一括支給)</p>						
<p>支給までの流れ</p> <pre> 県内金融機関から県へ寄附（各金融機関 10万円） ・秋田銀行 ・北都銀行 ・秋田信用金庫 ・秋田県信用組合 ↓ 県による対象者の選考・決定 ↓ 県が対象者に支給 </pre>						

3	事業名	林業普及指導研修補助事業				
事業期間：S58～		当初予算額 1,911千円				
担	当	研修普及指導室	財	国	庫	955千円
		普及指導チーム				源
		チームリーダー	内	訳		
		佐藤 博美				
		シニアエキスパート				
		小坂 琢也				
		専門員				
		春日 進				
[事業の目的]						
<p>林業普及指導事業を円滑に進めるとともに、試験研究成果の現地適応化による林業技術の改善とその普及及び巡回指導を実施するほか、地域における事例等の情報の収集整理とその活用を図る。また、林業普及指導員の資質向上を図るため国が実施する研修等に参加する。</p>						
[令和8年度 事業の内容]						
(1) 地域運営事業						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 林業普及活動に必要な関係資料を整備し、普及啓発を行う。 						
(2) 林業普及指導研修等事業						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国等が開催する中央技術研修及び全国・ブロックシンポジウム等へ参加する。 ・ 林業普及指導員に対する研修（全員・特技等）を実施し、林業普及指導員の資質向上を図る。 ・ 林業関係技術者等との技術等の情報交換研修を実施し後継者等の育成を図る。 						
(3) 林業技術現地適応化事業						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 試験研究成果等の取りまとめと情報の提供を行う。 						

4	事業名	林業普及指導研修事業						
事業期間：S55～		当初予算額	2,191千円					
担	当	研修普及指導室 普及指導チーム	チームリーダー シニアエキスパート 専門員	佐藤 博美 小坂 琢也 春日 進	財 源 内 訳	一	般	2,191千円
<p>[事業の目的]</p> <p>森林・林業の重要性の普及啓発と林業技術の研修事業を強化するとともに、より効率的な普及活動を展開するため指導的林業者等の育成と地域の重点対策の検討などを行う。</p> <p>特に、森林の適切な管理により森林の持つ公益的機能の維持増進を図るため、林業後継者の意欲を高め林業生産活動の活発化を図られるよう人材育成を主体とした事業を行う。</p>								
<p>[令和8年度 事業の内容]</p> <p>(1) 意欲的林業者グループ活動支援事業</p> <p>① 林業技術交換研修開催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林所有者等を対象とした林業技術等や研究機関からの情報提供、林業グループの活動発表を行う研修会を開催する。 <p>② 林業後継者組織育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般社団法人秋田県森と水の協会林業後継者部会が、先進的な技術や知識を修得するための活動に対して助成する。 <p>(2) 指導的林業者等育成事業</p> <p>① 指導林家・林業普及指導協力員研修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導林家、林業普及指導協力員を対象に、最新の林業技術や森林の活用方法等に関する研修会を開催する。 <p>② 林業普及指導協力員活用事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 林業普及指導協力員の活動を支援し、普及活動協力員とともに関係機関と連携を図りながら、林業教室等を効率的に開催する。 <p>(3) 林業経営コンクール開催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 林業経営コンクールを開催し優秀な森林所有者、林業経営体等を表彰するとともに、大日本山林会主催の全国林業経営推奨行事に推薦する。 <p>(4) 林業普及指導技術習得研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 林業普及指導員等の資格取得を支援する。 								

7 技術支援

(1) 委員委嘱

名 称	役 職 名	職 名	氏 名
東北森林科学会	理 事	所 長	千葉 崇
日本海岸林学会・同学会誌	幹事・編集委員	資源利用部長	田村 浩喜
種苗法に基づく出願品種の現地調査員	現地調査員	専門員	菅原 冬樹
東北森林管理局技術開発委員会	委 員	環境経営部長	和田 覚
第148回秋田県種苗交換会	8部審査部長	主任研究員	村田 政穂
〃	審査員	専門員	菅原 冬樹
〃	審査員	研究員	久保 智裕
森吉山麓高原自然再生協議会	委 員	環境経営部長	和田 覚
いわて林業アカデミー運営協議会	委 員	チームリーダー	小笠原正太
東北農林専門職大学附属農林大学校林業経営科教育計画評価委員会	委 員	チームリーダー	小笠原正太
秋田県美しい森づくり協議会	委 員	総務企画室長	細谷百合子
秋田県林業グループ活動コンクール	審査員	所 長	千葉 崇
秋田の森林づくり編集会議	委 員	チームリーダー	小笠原正太
〃	委 員	チームリーダー	佐藤 博美
雄和椿川地区熊対策協議会	委 員	所 長	千葉 崇
岩手県立博物館研究協力員	研究協力員	主任研究員	沼宮内信之
日本緑化工学会第19期編集委員会	委 員	資源利用部長	田村 浩喜
森林立地学会	理 事	環境経営部長	和田 覚
令和7年度森林病虫害等被害対策技術調査事業検討委員会	委 員	研究員	福沢 朋子

(2) 研修等講師派遣

月 日	主 催 者	内 容	担当室・部	担当者名
R7 4. 9 ～11	秋田県林業労働対策基金	ニューグリーンマイスター育成学校	研修普及指導室	成田 義人
5. 13 ～14	秋田県林業労働対策基金	ニューグリーンマイスター育成学校	研修普及指導室 研修普及指導室 研修普及指導室 研修普及指導室 環境経営部 資源利用部	成田 義人 佐藤 博美 小坂 琢也 矢尾 尋子 和田 覚 菅原 冬樹
5. 29 6. 12 6. 19 7. 3	秋田県立大学 応用生物科学科 生物環境科学科 生物生産科学科 アグリビジネス学科	化学・生物学実験Ⅱ	環境経営部	和田 覚
5. 29	秋田県立聴覚支援学校	「出前講座」(キノコの世界を知る)	資源利用部 資源利用部 資源利用部	菅原 冬樹 村田 政穂 久保 智裕
6. 4	秋田県立大学 生物資源学部	第181回森林科学セミナー講演 「カシノナガキクイムシを探して十 ナラ枯れニューノーマル」	環境経営部	福沢 朋子
6. 16	東部女性セミナー	「出前講座」(キノコの世界を知る)	資源利用部	菅原 冬樹

月 日	主 催 者	内 容	担当室・部	担当者名
6. 18	大曲支援学校中学部農園芸班	「出前講座」(キノコの世界を知る)	資源利用部 資源利用部 資源利用部	村田 政穂 菅原 冬樹 久保 智裕
6. 19	栗田支援学校	「出前講座」(キノコの世界を知る)	資源利用部 資源利用部 資源利用部	村田 政穂 菅原 冬樹 久保 智裕
6. 25	森吉山麓高原自然再生協議会(自然保護課)	森吉山麓高原自然再生協議会(現地検討会)	環境経営部 環境経営部	和田 覚 沼宮内信之
6. 27	仙北地域振興局農林部森づくり推進課	菌床シイタケ経営体への栽培技術等の指導	資源利用部 資源利用部 資源利用部	村田 政穂 菅原 冬樹 久保 智裕
7. 3 ～ 4	農林水産省輸出・国際局知的財産課	出願品種の現地調査(福島県郡山市)	資源利用部	菅原 冬樹
7. 6	りんご三山友の会	外来種ニセアカシアの繁殖特性と管理についての現地検討会	資源利用部	田村 浩喜
7. 16 ～17	森林資源造成課	あきた造林マイスター育成研修	環境経営部 資源利用部 環境経営部 資源利用部	和田 覚 千葉 信隆 新田 響平 佐藤 博文
7. 28 7. 29 8. 4 8. 6	秋田県森林組合連合会	「緑の雇用」フォレストワーカー2年次生集合研修	研修普及指導室	加利屋義広
7. 31 8. 1 8. 7 8. 8	秋田県森林組合連合会	「緑の雇用」フォレストワーカー1年次生集合研修	研修普及指導室	加利屋義広
8. 5	栃木県環境森林部森林整備課	令和7年度ナラ枯れ被害防除対策会議	環境経営部	福沢 朋子
8. 18	茨島七丁目高齢者学級	「出前講座」(キノコの世界を知る)	資源利用部	菅原 冬樹
8. 19	上小阿仁中学校・阿仁学園	林業体験学習会	研修普及指導室 研修普及指導室 研修普及指導室 研修普及指導	佐藤 博美 小坂 琢也 春日 進 矢尾 尋子
9. 8	秋田県生活衛生関係営業能代市地方連絡協議会	「出前講座」(キノコの世界を知る)	資源利用部	菅原 冬樹

月 日	主 催 者	内 容	担当室・部	担当者名
9.10	金足農業高校	林業体験学習会	所 長 総務企画室 研修普及指導室 研修普及指導室 研修普及指導室 研修普及指導室 研修普及指導室 研修普及指導室	千葉 崇 細谷百合子 佐藤 博美 小坂 琢也 春日 進 矢尾 尋子 加藤 幸雄 佐藤 綾子
9.13	日本樹木医学会	令和7年度第1回樹木医実践技術講座	資 源 利 用 部	村田 政穂
9.16	西目高校	令和7年度林業体験学習会	研修普及指導室 研修普及指導室 研修普及指導室 研修普及指導室	佐藤 博美 小坂 琢也 春日 進 矢尾 尋子
9.24	北鷹高校	高性能林業機械操作体験学習会	研修普及指導室 研修普及指導室 研修普及指導室 研修普及指導室 研修普及指導室 研修普及指導室	成田 義人 小坂 琢也 春日 進 矢尾 尋子 加藤 幸雄 佐藤 綾子
9.25	日本森林技術協会	令和7年度ナラ枯れ被害対策実態調査第2回検討委員会	環 境 経 営 部	福沢 朋子
10. 6	山形県森林研究研修センター	菌床マイタケ生産現場指導	資 源 利 用 部 資 源 利 用 部	菅原 冬樹 久保 智裕
10.10	秋田市農山村地域活性化センター	「出前講座」(キノコの世界を知る) 大滝山キノコ観察会	資 源 利 用 部	菅原 冬樹
10.15	飯島老人いこいの家	「出前講座」(キノコの世界を知る) いきいきサロン	資 源 利 用 部	菅原 冬樹
10.20	秋田県生活衛生同業組合 横手市地方連絡協議会	「出前講座」(キノコの世界を知る)	資 源 利 用 部	菅原 冬樹
10.27	秋田県生活衛生同業組合 由利地方連絡協議会	「出前講座」(キノコの世界を知る)	資 源 利 用 部	菅原 冬樹
11. 7	森林資源造成課	令和7年度低コスト省力技術研修会	資 源 利 用 部	千葉 信隆
11.10	秋田県生活衛生同業組合 大仙地方連絡協議会	「出前講座」(キノコの世界を知る)	資 源 利 用 部	菅原 冬樹
11.13	秋田南高校	「国際探究」判別フィールドワーク 講師	総務企画室	澤田 智志
11.25	森林環境保全課	令和7年度第2回秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会	環 境 経 営 部	福沢 朋子

月 日	主 催 者	内 容	担当室・部	担当者名
12. 1	秋田県生活衛生同業組合 大館支部	「出前講座」(キノコの世界を知る)	資源利用部	菅原 冬樹
12. 8	秋田県生活衛生同業組合 北秋田地方連絡協議会	「出前講座」(キノコの世界を知る)	資源利用部	菅原 冬樹
12.12	雄勝広域森林組合	「出前講座」(次世代の森づくりに むけて) 第28回安全衛生大会	環境経営部	和田 覚
12.13	宇都宮大学農学部付属演 習林	第3回日光ネイチャーカレッジ講師	環境経営部	福沢 朋子
12.22	日本森林技術協会	令和7年度ナラ枯れ被害対策実態調 査第2回検討委員会	環境経営部	福沢 朋子
R8 1.16	岩手県林業技術センター	いわて林業アカデミー運営協議会	研修普及指導室	小笠原正太
1.16	米代東部苗木生産組合	米代東部苗木生産組合研修会	資源利用部	田村 浩喜
1.20 ～21	秋田県林業研究研修セン ター	令和7年度秋田県林業技術交換研修 会	研修普及指導室 環境経営部 資源利用部	矢尾 尋子 沼宮内信之 久保 智裕
1.22	東北森林管理局	令和7年度森林官養成研修(後期)	研修普及指導室	佐藤 博美
1.27	森吉山麓高原自然再生 協議会(自然保護課)	第31回森吉山麓高原自然再生協議 会	環境経営部	和田 覚
1.28	岩手県土地改良事業団体 連合会(水土里ネット岩手)	令和7年度水土里ネット役員研修会 (ブナ林の生態とクマの出没動向)	環境経営部	和田 覚
2. 2	湯沢雄勝地区生活衛生関 係営業地方連絡協議会	「出前講座」(キノコの世界を知る)	資源利用部	菅原 冬樹
2. 3 ～ 5	農林水産省輸出・国際局 知的財産課	出願品種の現地調査(栃木県宇都宮 市)	資源利用部	菅原 冬樹
2. 9	秋田県生活衛生関係営業 秋田地方連絡協議会	「出前講座」(キノコの世界を知る)	資源利用部	菅原 冬樹
2.10	長野県園芸畜産課	令和8年長野県きのこ生産振興研修 会	資源利用部	菅原 冬樹
2.10	秋田県山林種苗協同組合	秋田県山林種苗協同組合研修会	資源利用部	佐藤 博文
2.16	秋田県生活衛生関係営業 能代山本地方連絡協議会	「出前講座」(キノコの世界を知る)	資源利用部	菅原 冬樹
2.12	森林資源造成課	令和7年度林業種苗生産事業者講習 会	資源利用部	田村 浩喜 千葉 信隆

(3) 視察研修・見学対応

月 日	視 察 ・ 見 学 者	見学者数
R 7. 5. 29	秋田県立聴覚支援学校 中学部 (あきた県庁出前講座:キノコ)	8
R 7. 6. 18	秋田県立大曲支援学校 (あきた県庁出前講座:キノコ)	8
R 7. 6. 19	秋田県立栗田支援学校 (あきた県庁出前講座:キノコ)	14
R 7. 6. 11	森林総合研究所多摩森林科学園	1
R 7. 6. 16	日本政策投資銀行	3
R 7. 7. 23	秋田長生大学	37
R 7. 7. 24	青森県議会農林水産委員会	12
R 7. 9. 8	秋田県産林種苗組合中央支部	13
R 7. 9. 12	男鹿南秋田森林組合	60
R 7. 10. 31	盛岡市総務部管財課	7
R 7. 11. 13	秋田県議会農林水産委員会現地調査	14
	小 計	177
	技術相談・一般見学(自由見学)等	182
	合 計	359

8 研究成果等の発表・広報

(1) 学会誌掲載

論 文 名	執 筆 者	発 行 誌 名	年 月
スギ高齢級人工林の個体の成長に及ぼす地位と密度の関係 (論文)	澤田智志, 西園朋広 (森林総研)	東北森林科学会誌	2025年9月
広葉樹と混交したスギ単植え人工林の40年間の林分構造の変化 (報文)	伊藤良太 (あきた森のハーモニー), 澤田智志, 和田覚	東北森林科学会誌	2025年9月
東北森林科学会第29回大会テーマ別セッション「東北地方におけるブナ林研究の歩みと展望」	和田覚, 大貫靖浩 (森林総研)	東北森林科学会誌	2025年9月
Stand characteristics and aboveground biomass of young coastal <i>Pinus thunbergii</i> Parl. stands with different tree densities	K. Masaka, M. Watanabe, K. Nitta, H. Tamura, T. Kanko, M. Shirahata, H. Yamazaki & I. Moriwaaki	Journal of Forest Research	2025年11月
Beyond rain:Fog as a dominant pathway for acid deposition in Japan's Montane Forests	Yize Wang, Hiroshi Okochi, Hiroshi Hayama, Manabu Igawa, Yoshiyuki Takahashi, Hiroaki Yagoh, Masatoshi Kuribayashi, Yuri Kanno, Kyohei Nitta, Hiroyuki Sase, Masahide Aikawa	Atmospheric Research	2025年11月
森吉山麓高原ブナ天然林土壌の保水能に寄与する物理特性—予報—	大貫靖浩 (森林総研)、新田響平、和田覚、森下智陽 (森林総研東北)、山下尚之 (森林総研四国)	森林立地	2025年12月
間伐が実施されているスギ林の長期成長—近接する人工林と天然林の時系列データに基づく推察—	西園朋広(森林総研)、澤田智志、福本桂子(森林総研九州)、北原文章(森林総研)、高嶋敦(琉球大学)、志水克人(森林総研四国)、鄭峻介(森林総研北海道)、小谷英司(森林総研)、松浦俊也(森林総研東北)、齋藤英樹、細田和男(森林総研)	森林計画学会誌	2026年1月

(2) 学会発表・研究会発表

学会等名	月日	開催場所	発表課題名	発表者
すげの会第34回全国大会	R7. 5. 10～5. 11	サントピア水口（滋賀県甲賀市）	・秋田、岩手、宮城に生育するミセンアオスゲに似たスゲ属	沼宮内信之(秋田林セ)
日本きのこ学会第28回大会	R7. 9. 2～9. 3	Gメッセ群馬	・ハタケシメジ菌床栽培の省力化に向けた培地組成の検討 ・低コスト栽培を目指したアラゲキクラゲの培地組成の検討	村田政穂・久保智裕・菅原冬樹(秋田林セ) 久保智裕・村田政穂・菅原冬樹(秋田林セ)
森林施業研究会2025道北合宿	R7. 10. 1～10. 3	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	・再造林オプションとしての広葉樹林施業技術の刷新	沼宮内信之(秋田林セ)
令和7年度日本海岸林学会陸前高田大会	R7. 10. 4～10. 5	陸前高田市民文化会館	・砂丘地に植栽したカシワコンテナ苗14年生の生育状況	田村浩喜(秋田林セ)
第30回東北森林科学会	R 7. 11. 8～11. 9	山形市保健所	・ブナ二次林間伐試験地の100年生までの成長経過 ・森吉山麓におけるブナ植栽木の成長と天然更新広葉樹の影響 ・秋田県の海岸林におけるクロマツを指標とした広葉樹の生育予測 ・スギ人工林における針広混交林化整備事業後の広葉樹定着の長期的変化 ・スマートセンシングを活用したスギ挿し木コンテナ苗生産 ・培養時の高温が菌床シイタケの子実体の発生に及ぼす影響 ・低コスト栽培を目指したアラゲキクラゲ菌床の炭酸カルシウム濃度の検討 ・間伐が年最大・最小日流出量(無雪期)に及ぼす影響ー長坂試験地での事例ー	和田覚・新田響平・澤田智志(秋田林セ) 沼宮内信之・菅原悠樹・長岐昭彦・和田覚(秋田林セ) 新田響平(秋田林セ) 福沢朋子・新田響平・和田覚(秋田林セ) 千葉信隆・佐藤博文(秋田林セ) 村田政穂・久保智裕・菅原冬樹(秋田林セ) 久保智裕・村田政穂・菅原冬樹(秋田林セ) 田村浩喜(秋田林セ)・野口正二(森林総研東北))

学会等名	月日	開催場所	発表課題名	発表者
令和7年度豪雪地帯林業技術開発協議会	R7. 11. 26 ～11. 27	鳥取県立生涯学習センター県民ふれあい会館	・糞DNAメタバーコーディング解析を用いた秋田県産ニホンジカの食性調査	丹羽壱太(秋田林セ)
第137回日本森林学会大会	R8. 3. 16～ 3. 19	筑波大学	・小笠原諸島の駆除外来樹を用いたアラゲキクラゲの菌床栽培の検討 ・森吉山麓高原ブナ林長期モニタリングサイトの森林動態 ・豪雪地牧場跡地におけるブナ植栽手法評価 ・秋田県における広葉樹材需給の現状	村田政徳・三浦正嗣・菅原冬樹(秋田林セ) 新田響平・丹羽壱太・和田覚(秋田林セ) 沼宮内信之・菅原悠樹・長岐昭彦・和田覚(秋田林セ) 福沢朋子・新田響平・沼宮内信之・和田覚(秋田林セ)

(3) 特定母樹の指定 (スギ)

該当なし

(4) 報告書等

書名	執筆者	題名	発行年月
美の国あきたネット (新着情報)	和田 覚	2026年ブナ豊凶予報及びこれまでのブナ・ミズナラ結実状況	R 7. 11
林業改良普及双書No. 212 (全国林業改良普及協会)	和田 覚	主伐後の再造林を進める新たな仕組みと技術 下刈り回数の削減に挑戦する～これまでとこれから～	R 8. 2
公立林業試験研究機関研究成果選集No. 23	澤田 智志	スギ高齢級人工林の成長特性	R 8. 3
研究報告 第33号 (オンラインジャーナル)	新田 響平	低密度植栽に対応したスギ人工林新施業体系	R 8. 3
実用化できる試験研究成果 (冊子印刷)	新田 響平	低密度植栽を活用した低コストスギ人工林施業体系の提案	R 8. 3
研究スポット (リーフレット印刷)	新田 響平	スギ並材生産に対応した低コスト人工林施業体系	R 8. 3
秋田県林業普及冊子 NO. 34 (冊子印刷)	和田 覚 新田 響平 佐藤 博文	これからの再造林	R 8. 3
日本森林技術協会	福沢 朋子	林野庁補助事業「ナラ枯れ被害対策マニュアル 新版」	R 8. 3
森林総合研究所東北支所	田村 浩喜 和田 覚	積雪地域の森林流域における水土保全機能一現地観測と調査データに基づく森林管理に向けて	R 8. 3

(5) 雑誌等への投稿

雑誌等名(発行所)	掲載年月	内 容	執 筆 者
秋田の森林づくり (秋田県森と水の協会)	R7. 4・5月 合併号	ブナ等の結実状況からクマの出没動向を探る 秋田林業大学校修了式～9期生の新たな門出～	和田 覚 佐藤 綾子
	R7. 7月号	秋田林業大学校情報 令和8年度研修生募集	佐藤 綾子
	R7. 8月号	令和5年度第59回秋田県林業経営コンクールの 審査結果の紹介	春日 進
	R7. 9月号	「森林のチカラで新たな価値を！」J-クレジット 制度活用研修について	小坂 琢也
		秋田林業大学校情報 頑張っています。林大生！	佐藤 綾子
	R7. 10月号	衰退した海岸林からのはじまり ～緑豊かな環境の創造～	田村 浩喜
	R7. 11月号	令和7年度林業普及指導員北海道・東北ブロックシ ンポジウムについて	小坂 琢也
R8. 3月号	秋田県林業技術交換会研修会を開催 身近な森のナラ枯れの見つけ方とできること	矢尾 尋子 福沢 朋子	
会誌 第59号 (全国林業試験研究 機関協議会)	R7. 12	(ブロック情報) カーボンニュートラルに貢献する森林の長期モニタ リング試験	福沢 朋子

(6) 新聞掲載・テレビ放送

報道機関	掲載・放送 年月日	内 容	対 応 者
A B S テレビ	ニュースevery R7. 9. 9	林業体験学習会 (金足農業高校)	矢尾 尋子
毎日新聞	秋田版 R7. 9. 18	林業体験学習会 (西目高校)	矢尾 尋子
NHKテレビ	ニュース7 ニュースワッチ9 R7. 11. 13	ブナ実りの周期変化クマの個体数増加に影響か	和田 覚 新田 響平 福沢 朋子
	クロスアップ 現代 R7. 11. 19 NHKスペシャル R7. 11. 30	緊急検証” 過去最悪” のクマ被害 独自調査” クマ異常事態” の真相	
テレビ朝日	有働Taims R7. 11. 16	2026年ブナ豊凶予測について	和田 覚
共同通信社	R7. 11. 19	再来年も凶作？クマ出没に警戒 ブナの実隔年周 期、秋田県調査	和田 覚

報道機関	掲載・放送 年月日	内 容	対 応 者
秋田魁新報社	R7. 11. 28	クマの棲む街で ブナの豊凶「1年おき」	和田 覚
テレビ朝日	R7. 12. 2 スーパーJチャンネル	クマ急増 豊作と凶作の「サイクル」が関係	和田 覚
時事通信社	R7. 12. 8	クマ出沒数に影響？ブナの実2021年から周期変化	和田 覚
読売新聞社	R7. 12. 13	ブナの実豊作増え、繁殖か	和田 覚
NHK Webニュース	R7. 12. 23	今後も大量出沒か？クマの大量出沒に新たな理由が！？	和田 覚
日刊現代	R8. 1. 4	3～5月にエサ不足の恐れ、専門家が警戒呼びかけ	和田 覚
毎日放送	R8. 2. 17 よんチャンTV	”人的被害ゼロ”のクマ共生策	和田 覚 新田 響平
NHK秋田放送局	R8. 3. 6 ニュースこまち	花粉症対策となるエリートツリーの種子生産について	田村 浩喜

9 職員の研修受講

研 修 名	月 日	研 修 内 容	受講者名
該当なし			

参考資料

1 秋田県林業研究研修センター中長期計画

(計画期間：令和4年度～令和13年度：令和8年3月改訂) から抜粋

第4 林業研究研修センターが取り組む研究開発等や技術支援

1 研究開発等の推進の方向性

1) センターを取り巻く状況

秋田県の森林資源は、面積、蓄積ともに全国有数のスギ人工林や多様な樹種からなる広葉樹林、全長264kmに及ぶ海岸線のクロマツ林などで構成されている。

県内の森林面積の約5割が民有林であり、そのうち約6割が人工林である。民有林人工林については、スギが約9割を占め、そのうち主伐が可能となる標準伐期齢を迎えた森林面積が6割を超える状況であり、引き続きスギ人工林の主伐後の再造林を着実に進めることにより、将来的には林齢構成が平準化され、スギ人工林における永続的な循環利用が可能となるよう取り組んでいくことが重要となっている。

再造林の更なる促進のためには、優良種苗の安定供給体制の構築が不可欠であり、特に昨今では、花粉症対策や低コスト造林に有効な品種として、スギ特定母樹の種子の安定供給への需要が高まっている。

また、県内の広葉樹林においては、広域的に被害を及ぼすナラ枯れ被害が増大しており、令和6年度の本県民有林の被害量は前年度の236%に増加し、全国的にも5番目の多さとなっている。そのため、二酸化炭素の吸収や水源の涵養、土砂災害防止など森林の公益的機能の低下のほか、森林資源の持続的確保に支障をきたす懸念があることから、被害跡地の速やかな更新を促す必要がある。

さらに、海岸林ではマツ枯れ被害が依然として継続しており、飛砂防止や防風などの恒常的機能に加え、高潮や津波被害を軽減する機能の低下による県民の生活や居住環境への影響が懸念されており、松くい虫被害によって衰退した海岸防災林の再生に向けて、マツノザイセンチュウに対して抵抗性を有するマツの植栽や広葉樹等への樹種転換を推進していくことが求められている。

きのこ栽培については、本県の生シイタケの生産量が3,590tと全国5位(令和6年次)の位置にあり、県の園芸作目の主要生産品目の1つとなっているが、さらなる収益性の確保に向けて、シイタケ生産者の経営を安定させる栽培技術の開発と普及が必要となっている。

平成27年度に開講した秋田林業大学校では、これまでに森林のマネジメント能力や、高性能林業機械の操作技術等を身に付けた即戦力となる人材を育成してきた。これらの取組により、素材生産や再造林を担う現場では、若い世代の新規就業者が増加傾向にあるなど、若返りの兆しが現れてきた。

今後、増加する事業量に対応し、生産現場で低コスト・省力化をさらに進めていくためには、高度化する森林林業分野のデジタル化やスマート化を理解し、持続的な林業経営や森林管理に対応できる「若い林業技術者」の確保・育成が、引き続き重要な課題となっている。

2 重点的に取り組む研究等のテーマ

基本方針Ⅰ 持続可能な森林経営を実現する技術の開発

森林経営を持続可能なものにしていくため、これまで開発されたスギ林の育成や生産に関わるコスト削減や省力化に関わる技術を一層発展させ、社会実装化を図る。現状の森林資源量や将来的な木材需給動向の予測を踏まえ、適切な森林経営を選択するためのゾーニングとそれに対応した施業方法について技術開発を行う。また、カーボンストックに代表される森林機能の高付加価値化のほか、里山広葉樹林については、多様な価値の創出に対応した育成管理のための技術の開発に取り組む。

【重点テーマ① 木材供給とカーボンストックを見据えたスギ人工林の持続的管理手法の確立】

林地の生産力や生産性、収益性や集約性(地位や地利)に関する情報を精緻化し、「見える化」する技術として、航空レーザーやドローンを利用した効率的なモニタリングとゾーニング手法の開発に取り組む。また、ゾーニングに基づく適時、適切な間伐や主伐の実施、再造林の適否や手法などについて、従来の施業体系を発展、充実させる。さらに、木材供給ポテンシャルや森林由来のJ-クレジット創出に代表されるカー

ボンストックの評価に資するため、高齢級に対応した収穫予想表を再調製し、資源情報の再構築に取り組むとともに、持続可能な森林経営に貢献する人工林管理手法の確立を目指す。

【重点テーマ② 里山広葉樹林の利活用と保全・再生技術の開発】

ナラ枯れ被害の影響で、里山の広葉樹林は大きく変貌していることから、資源量の変化など森林の実態について明らかにするとともに、被害地では被害の程度に応じた再生手法を提案する。広葉樹材の価値やニーズは高まっており、現存する林分の状況確認と誘導可能性判定などにより、用材林育成のための施業技術を開発する。実験林等においては、成績調査を継続し、主要広葉樹の生理生態、生残、成長、樹形等の性質、特性を解明する。これらの結果や知見を基に、地形情報に基づく植栽適地の抽出、再造林のオプションとしての広葉樹の導入、低密度植栽や樹型誘導等による育成、諸被害回避などの技術の確立し、不確実性が高い広葉樹人工林育成技術の改良を図る。また、広葉樹材の需要と供給、流通に関する実態を調査し、未利用材の需要開拓やマッチングについて関係機関と連携して取り組む。併せて、景観、保健休養、生物多様性保全など、里山の多様なニーズや価値創出に対応した広葉樹林の育成と管理、保全に向けた技術の開発を行う。

基本方針Ⅱ 自然環境と社会基盤を支えるグリーンインフラとしての森林整備と保全に向けた技術の開発

森林の有する多面的機能は、自然資本の基盤を維持し、県民の生活の安全・安心、資源供給も含めた社会経済の発展に貢献している。こうしたグリーンインフラとしての機能を十分に発揮させるため、モニタリングにより多角的に森林を観測する体制を整え、観測情報のオープン化を進める。また、生態系機能を解明した成果を技術として応用していくことで、適切な森林整備に繋げていく。外来種や移入種は森林の生態系をかく乱し、在来種であっても病虫害の異常発生は森林や人間社会に大きな影響をもたらす。生物多様性に配慮した森林の保全管理に向けて、監視システムの構築や被害リスク低減を図るための順応的な管理手法の開発に取り組む。

【重点テーマ③ 生態系機能の解明と森林の持つ公益的機能の高度発揮】

松くい虫被害が激害化する海岸防災林について、強風や高潮、飛砂に対する防災機能を評価し、広葉樹導入による樹種転換の適否や適地を選定する手法を開発する。これらの成果や知見を基に、将来的なコストを踏まえた更新や維持管理の手法を提案し、最適な林分のスケール、配置や構造を模索し、多様な樹種構成からなる新しい海岸防災林をデザインする。牧場跡地など森林が失われた開発跡地においては、ブナの植栽等による自然再生に取り組み、モニタリングによる順応的な管理により事業を進める。スギ人工林からなる「大館市長坂森林理水試験地」においては、降雨、降雪等の気象、流域スケールでの水流出や水収支に関する観測を継続する。季節や期間などの時間スケール、気象条件、林況や管理状況の違いによる水収支や流況の変化を解析する。積雪寒冷地のスギ人工林における水循環をモデル化し、水土保全機能を維持していくための適切な森林管理に繋げていく。

【重点テーマ④ 気候変動に伴う森林の動態解明と被害リスク低減技術の開発】

「森吉山麓高原森林生態系長期大規模モニタリングサイト」をメインに、気象、森林の動態、バイオマス量、温室効果ガスの吸排出量、土壌構造などを長期的に調べ、気候変動や温暖化の影響を監視するシステムを構築する。また、生物の種類や数、サイズ構造、開花結実数等の変化を調べ、天然林の更新や維持されている仕組みについて解明する。ナラ枯れなどの病虫害が激害化した林分では、樹種組成の変化に伴う生態系の攪乱や土砂災害の誘発が懸念される。被害後の更新状況の把握や成林を阻害する要因の特定により、速やかに更新を促すための手法を提案する。新たな伝染性病虫害による森林被害に備え、監視体制を充実させるほか、発生時には関係機関と情報を共有し、速やかに実態の解明と防除手段を講じる。近年、本県で定着・繁殖が進むニホンジカについては、個体数密度増加を抑制する捕獲を支援するため、季節的、空間的な生息地の特定に取り組む。

基本方針Ⅲ 優れた林木種子の供給体制の整備と次世代品種の開発

再造林の推進は、林業・木材産業の成長産業化において重要な課題である。育種分野では、次世代優良種苗を安定的に供給する体制の構築が必要となる。このことから、初期成長が優れ、花粉症対策にも貢献するスギ特定母樹の採種園を整備する。また、近年合板用にカラマツ材の利用が拡大していることから、カラマツ特定母樹の採種園を整備する。さらに、マツ材線虫病によって衰退した海岸砂防林の再生に向けて、マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発と採種園整備を行う。

【重点テーマ⑤ スギ特定母樹の種子安定供給体制の整備】

スギ特定母樹の種子を安定的に生産するためには、種子生産量が多く、豊凶差の少ない品種を母樹にする

必要がある。令和元年から造成してきた特定母樹採種園には、初期に開発された品種から順に導入しているが、品種により種子生産量が大きく異なることが明らかになってきた。このことから、品種の特性（着花量、種子生産量、発芽率）を評価し、採種園に導入する品種の再構成を行う。また、ニーズの高いカラマツの需用に対応するため、カラマツ採種園を造成する。

【重点テーマ⑥ マツノザイセンチュウ抵抗性品種の性能評価と次世代品種の開発】

海岸防災林では松くい虫被害が拡大していることから、マツノザイセンチュウ抵抗性品種の種子生産基盤を強化する必要がある。そのために、現地選抜したマツの球果から大量の実生苗を生産し、新たな抵抗性品種の開発に取り組む。また、採種園に導入している品種の種子生産量を調査し、生産性に優れた採種園への改良を図る。

基本方針Ⅳ きのか生産者の安定経営を支える栽培技術の開発

シイタケは、本県の農山村地域経済を支える主要な複合経営作目として定着している。その一方で、生産者の高齢化や資材・光熱費の高騰により、生産環境は厳しい状況となっている。そのため、マーケットのニーズを把握しながら、シイタケ生産者のより安定的な経営を可能にする低コストな栽培技術の開発に取り組む。

【重点テーマ⑦ きのか生産における低コスト・省力化を実現する栽培技術の開発】

本課題では、シイタケ栽培における低コスト・省力化を実現する栽培技術の開発を行う。さらに、シイタケ生産を補完する形で、低コストかつ省力化を可能にする他のきのこの複合栽培技術の構築を目指す。これらの技術開発を通じて、シイタケ生産者がより持続可能で収益性の高い経営を行えるようにする。

基本方針Ⅴ 林業のトップランナーを目指す担い手の確保・育成と林業技術の普及

森林の有する多面的機能の発揮と林業の成長産業化を推進するためには、施業の集約化や適切な事業管理を行う必要がある。そのため、高度化する森林林業分野のデジタル化やスマート化の知識や木材の生産技術や、労働安全意識が高く、持続的な林業経営や森林管理を行うことができる「若い林業技術者」の確保・育成を行う。

また、林業の普及指導については、林業・木材産業の成長産業化と森林の適切な管理を両立する取組などを強化するため、高度で幅広い技術や知識を有し、地域の森林・林業を振興するための牽引役となる林業普及指導員の資質向上を図り、森林所有者や林業経営体等に低コスト・省力化技術の導入など新しい林業経営に関する最新の知見や技術等の普及・定着を図るとともに、地域の多様な実情に応じた取組を進める。

【重点テーマ⑧ 高い技術と専門知識ををもった担い手の確保・育成】

林業への就業を希望する若い担い手を育成するため、新規学卒者やAターン者等を対象とする秋田林業大学校での就業前研修に取り組む。

高性能林業機械等による実習の指導体制の充実や生産システム、労働安全衛生、持続的な林業経営及び林業のICT等活用による森林管理に関するカリキュラムを拡充させ、スマート林業にも対応できる若い林業技術者の確保・育成を行う。

【重点テーマ⑨ 森林の適切な管理と持続的経営に貢献する技術の普及】

森林所有者や林業経営体等による持続的な林業経営を目指し、ICTやスマート林業等の新しい技術習得に向けた研修会の開催や「秋田県林業普及冊子」の作成等により、技術・知識の普及・定着を図るほか、きのこ生産者の経営基盤の強化に向けた支援・指導など、地域の実情に応じた活動に取り組む。

普及指導体制については、林業普及指導員を中心に、行政相互、関係機関、当センター研究員等との役割分担を明確にし、情報共有や連携のもとで取組を進める。

■ 重点的に取り組む研究等のテーマのロードマップ (林業研究研修センター)

基本方針Ⅰ 持続可能な森林経営を実現する技術の開発

重点テーマ① 木材供給とカーボンストックを見据えたスギ人工林の持続的管理手法の確立
立地や伐期の選択及びカーボンクレジットに対応した持続的なスギ人工林管理手法を提案する

内容等	R8～R11(4年間)				R12～R17(6年間)						
	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	
成長や生産性の高い立地を特定し、木材供給ポテンシャルとして明示するほか、伐期の選択技術大やカーボンクレジットに対応した木材価値の拡大・最適化、育成コスト抑制による持続的なスギ人工林の管理手法を提案する。	炭素吸収量最大化を目指す高齢スギ人工林の管理手法の開発(R7～R11政策)				地位と地利を評価軸とした木材生産・炭素固定能力発揮のためのゾーニング手法開発(R12～政策)						
	JST共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)森の価値変換を通じた、自律した豊かさの実現拠点・里山を含む中山間地域における価値創造(R7～R16研究協力)										

重点テーマ② 里山広葉樹林の利活用と保全・再生技術の開発
里山広葉樹林の新たな価値創造・高付加価値化と順応的な管理により資源の保続を図る

内容等	R8～R11(4年間)				R12～R17(6年間)						
	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	
広葉樹林への新たな価値創造と高付加価値化により、利活用を促進させる。また、広葉樹林を育成する際の病虫害の発生や育成過程で生じる不確実性に耐し、モニタリング等で柔軟な対応を可能とする順応的管理手法を導入した保全管理手法を提案する。	再造林オプションとしての広葉樹林施業技術の刷新(R8～R9政策)				順応的管理手法に基づく里山保全管理技術の開発(R15～政策)						
	針広混交林化事業地モニタリング(R7～R9配当)										
	広葉樹混交による針葉樹人工林の生物多様性形成機構の解明(R10～R11研究費)										
	新たな価値創造による広葉樹林育成管理技術の開発(R10～R14政策)										
	JST共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)森の価値変換を通じた、自律した豊かさの実現拠点・森とまわりのカーボンストックの推進(R7～R16研究協力)										

基本方針Ⅱ 自然環境と社会基盤を支えるグリーンインフラとしての森林整備と保全に向けた技術の開発

重点テーマ③ 生態系機能の解明と森林の持つ公益的機能の高度発揮
森林生態系における生物と環境との相互作用や働きを解明し、公益的機能の高度発揮に向けた森林管理技術を開発する。

内容等	R8～R11(4年間)				R12～R17(6年間)						
	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	
スギ人工林やブナ天然林における水循環等の働きや、二酸化炭素の吸収・固定能力について実態解明し、これら機能の発揮に資する森林管理手法を提案する。	水循環と洪水調節の観点からみたブナ林土壌の保水機能の二元的定量評価(R8～R10研究費)				森林の公益的機能の高度発揮に関する試験研究(H13～配当)						
	森林の公益的機能及び維持管理に関する試験研究(H30～R12配当)										
	JST共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)森の価値変換を通じた、自律した豊かさの実現拠点・里山を含む中山間地域における価値創造(R7～R16研究協力)										
マツ材線虫病によって森林化が進行した海岸林について、広葉樹の導入による防災機能の検証及び再生復旧に向けた技術開発を行う。また、牧場として開発されたブナ林の再生について自然再生事業を推進し科学的に支援する。	多様な樹種構成による秋田の海岸防災林造成技術の開発(R4～R8政策)				グリーンインフラとしての海岸防災林の再生・復旧ゾーニング技術の開発(R9～配当)						
	森吉再生事業に関する調査研究(H30～配当)										

重点テーマ④ 気候変動に伴う森林の動態解明と被害リスク低減技術の開発
温暖化がブナ林生態系に及ぼす影響を明らかにし、シカや特定外来生物による諸被害の監視と予防や対策を提案する。

内容等	R8～R11(4年間)				R12～R17(6年間)						
	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	
	森林生態系長期大規模モニタリングサイトの設置と観測(H32～配当)										
温暖化等の実態や森林環境への影響・変化を監視するモニタリングシステムの構築を図り、本県を代表する自然植生であるブナ林生態系の仕組みや動態を解明する。	深層林の温室効果ガス収支の高精度推定～土壌中酸化還元環境・地形・樹種影響(R7～R11研究費)				ブナ等結実量調査および豊凶の予測(ツキノワグマ出没警報システム)(H6～配当)						
	シカによる植生変化の解明と密度濃淡推定手法の確立(R9～R10配当)										
	造林地シカ被害実態調査(R7～配当)										
他県からの侵入により定着・繁殖が進むニホンジカや特定外来生物(クビアカツバキなど)について監視するほか、生育密度の高い定着地を特定し、農林産物や植生への被害、生活環境への悪影響に対する予防や対策を提案する。	特定外来生物等の分布予察・病虫被害等発生予防対策に関する研究(R10～R14政策)				マツノザイセンチュウ病同定、ニホンジカ被害同定(S63～配当)						

基本方針Ⅲ 優れた林木種子の供給体制整備と次世代品種の開発

重点テーマ⑤ スギ特定母樹の種子安定供給体制整備
再造林の促進に重要な、優良種苗の安定的な供給体制を整備する。

内容等	R8～R11(4年間)					R12～R17(6年間)				
	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
スギ特定母樹の種子を安定供給するために、品種毎の種子生産に関する特性を明らかにし、生産性の高い採種園を整備する。	次世代秋田スギの種子増産に向けた採種園の最適化(R8～R12政策)									
特定母樹と雷害抵抗性品種の性能を検証する次世代採種林を造成して性能を評価するとともに、第3世代の品種開発を進める。	スギ第3世代品種の開発(R13～R17配当)									
カラマン特定母樹の接ぎ木増殖と育苗試験および採種園造成を行う。	カラマン導入加速化技術の開発(R4～R13配当)									
採種園の更新により多様な種子生産体制を整備する。	再造林優良種苗確保事業(H9～R18事業)・種子採取事業・採種園種子生産対策対策事業(S20～事業)・種子生産事業(S46～事業)・採種園育成事業(S39～事業)									

重点テーマ⑥ マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発
松くい虫被害地復旧のため、強い抵抗性を持つ品種の種子を供給する。

内容等	R8～R11(4年間)					R12～R17(6年間)				
	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
採種園を最新の特性データをもとに改良し、優れた抵抗性種子の安定生産供給を行う。	採種園の整備(R6～R10配当)・種子採取事業(H29～事業)									
マツノザイセンチュウ抵抗性新品種を開発する。将来的には、開発品種の性能評価を行い、次世代品種の開発を目指す。	マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発(R9～R14配当)									

基本方針Ⅳ きのご生産者の安定経営を支える栽培技術の開発

重点テーマ⑦ きのご生産における低コスト・省力化を実現する栽培技術の開発
シイタケ生産者が、持続可能で収益性の高い経営を行えるようにする。

内容等	R8～R11(4年間)					R12～R17(6年間)				
	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
商品価値の高いオリジナル品種の育成や地域の特産となる新しい品種を創出し、魅力あるきのごとして情報発信する。	キノコの新品種・新品目の創出(R6～R10政策)									
農山村地域経済を支える産地シイタケ経営のリスク分散を図るため、複合的に補完する新たなキノコの栽培技術を開発する。	キノコ新品種・新品目の低コスト栽培技術の開発(R11～R15政策)									
産地シイタケ生産の経営基盤を強化する新たなキノコの導入と栽培システムの構築	シイタケ生産の経営基盤を強化する新たなキノコの導入と栽培システムの構築(R6～R10政策)									
菌類保全を実現させる保全遺伝学研究への挑戦	菌類保全を実現させる保全遺伝学研究への挑戦(R5～R9)									
重根性きのこを探索し、林業用苗木の活着や生育向上に資する活用技術を開発する。	重根性きのこを活用した育苗技術の開発(R7～R9外部)									
	重根性きのこが苗木の活着率に及ぼす影響の解明(R10～外部)									
	シイタケ生産のリスク分散に関する研究(R16～R20政策)									

基本方針Ⅴ 林業のトップランナーを目指す担い手の確保・育成と林業の普及

重点テーマ⑧ 高い技術と専門知識をもった担い手の確保・育成
高い技術と専門知識をもった担い手の確保・育成人材の確保・育成を行う。

内容等	R8～R11(4年間)					R12～R17(6年間)				
	R8	R9	を	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
秋田林業大学校において、就業前研修に取り組み、	「オール秋田で育てる」林業トップランナー育成事業(H26～)									
研修生への指導体制の強化、カリキュラムの拡充を図る。	指導体制の充実、カリキュラムの拡充(H26～)									

重点テーマ⑨ 森林の適切な管理と持続的経営に貢献する技術の普及

内容等	R8～R11(4年間)					R12～R17(6年間)				
	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
林業技術の普及・定着を図る。	「各種技術研修の開発」「冊子の作成」等									
地域の実情に応じた活動に取り組む。	きのご生産者の安定経営に向けた支援・指導をはじめ地域課題の解決に向けた取組等									

2 次代検定林一覧

(単位：ha)

名 称	所 在 地	面 積	設 定 年	概 要
東 秋 県 3号	南秋田郡五城目町内川浅見内字大場196-3	1.50	S 4 7	精英樹(さし木)23ヶ畝
東 秋 県 4号	大仙市内小友字石持75	1.50	S 4 8	精英樹(さし木)24ヶ畝
東 秋 県 5号	由利本荘市土谷字七曲2-1の内	1.50	S 4 9	精英樹(さし木)24ヶ畝
東 秋 県 6号	由利本荘市由利西沢字前田51-16	1.50	S 4 9	精英樹(さし木)24ヶ畝
東 秋 県 7号	横手市内南郷字赤平37、38内	1.50	S 5 0	精英樹(さし木)25ヶ畝
東 秋 県 9号	秋田市太平山谷字貝ノ沢113-2~6	1.73	S 5 2	精英樹(さし木)38ヶ畝
東 秋 県10号	秋田市河辺戸島字麩子144-1	1.50	S 5 4	精英樹(実生)15ヶ畝
東 秋 県11号	山本郡三種町鹿渡大羽根川42-1	1.50	S 5 4	精英樹(実生)15ヶ畝
東 秋 県12号	大仙市協和稲沢字台林4-2	1.50	S 5 5	精英樹(実生)15ヶ畝
東 秋 県13号	南秋田郡五城目町富津内中津又二ノ沢30-6の内	1.50	S 5 5	精英樹(実生)20ヶ畝
東 秋 県14号	由利本荘市岩城君ヶ野字板沢1-30	1.50	S 5 6	精英樹(実生)20ヶ畝
東 秋 県15号	湯沢市沼ノ岱山1-4	1.50	S 5 6	精英樹(実生)21ヶ畝
東 秋 県16号	大館市葛原字沼田63の内	1.50	S 5 7	精英樹(実生)23ヶ畝
東 秋 県17号	由利本荘市深沢字七曲48-2	1.50	S 5 7	精英樹(実生)24ヶ畝
東 秋 県18号	北秋田市栄字川上58-23	1.50	S 5 8	精英樹(実生)22ヶ畝
東 秋 県19号	大仙市南外水上沢15-1地内	1.50	S 5 8	精英樹(実生)24ヶ畝
東 秋 県20号	秋田市新成五十丁潤金1	1.50	S 5 9	精英樹(実生)25ヶ畝
東 秋 県21号	由利本荘市鳥海町小川字上八森10	1.50	S 5 9	精英樹(実生)24ヶ畝
東 秋 県22号	鹿角市十和田山根鳥ヶ平37	1.50	S 6 0	精英樹(実生)25ヶ畝
東 秋 県23号	湯沢市皆瀬字深沢1	1.50	S 6 0	精英樹(実生)26ヶ畝
東 秋 県24号	秋田市河辺北野田高屋字築師沢72-1	1.50	S 6 0	精英樹(さし木)36ヶ畝
東 秋 県25号	雄勝郡羽後町上山道字上合山32	1.50	S 6 1	精英樹(実生)22ヶ畝
東 秋 県26号	湯沢市皆瀬字雨沼山61	1.50	H 1	精英樹(実生)27ヶ畝
東 秋 県27号	秋田市雄和町川字会沢34-7	1.50	H 1	精英樹(実生)25ヶ畝
東 秋 県28号	山本郡八峰町峰兵水沢字水沢山11	1.50	H 2	精英樹(実生)24ヶ畝
秋(県単) 1号	由利本荘市鳥海小川字檜木平25	0.40	S 6 0	雪害抵抗(さし木)16ヶ畝 他36ヶ畝
秋(県単) 2号	秋田市河辺北野田高屋字築師沢72-1外	0.20	S 6 0	雪害抵抗(さし木)11ヶ畝 他28ヶ畝
秋(県単) 3号	仙北市角館町山谷崎字萩ノ台	0.60	S 6 0	雪害抵抗(さし木)32ヶ畝 他29ヶ畝
秋(県単) 5号	湯沢市三梨字前平3内	0.50	S 6 1	精英樹(さし木)44ヶ畝 他18ヶ畝
秋(県単) 6号	秋田市河辺北野田高屋字築師沢72-1外	0.30	S 6 2	雪害抵抗(実生)30ヶ畝
秋(県単) 7号	秋田市河辺北野田高屋字築師沢72-1外	0.30	S 6 2	精英樹(さし木)59ヶ畝
秋(県単) 8号	北秋田市米内沢字滝ノ沢上段30の内	0.50	S 6 3	雪害抵抗(さし木)48ヶ畝 他35ヶ畝
秋(県単) 9号	由利本荘市鳥海小川字大清水4-2内	0.80	S 6 3	雪害抵抗(さし木)64ヶ畝 他15ヶ畝
秋(県単) 10号	秋田市河辺松濶字大滝沢130	0.60	H 1	精英樹・交雑7ヶ畝 他41ヶ畝
秋(県単) 11号	湯沢市皆瀬雨沼字雨沼山61	0.40	H 1	精英樹・交雑6ヶ畝 他22ヶ畝

名 称	所 在 地	面 積	設 定 年	概 要
秋(県単) 1 2号	横手市山内平野沢字上蛇ヶ沢1-2	0.30	H 8	雪害抵抗・交雑24ｸﾛﾝ
秋(県単) 1 3号	横手市雄物川町大沢字北野権部28-1	0.30	H 8	雪害抵抗・交雑24ｸﾛﾝ
秋(県単) 1 4号	大仙市協和荒川稲沢字春木場沢10	0.30	H 9	雪害抵抗・交雑23ｸﾛﾝ
秋(県単) 1 5号	由利本荘市中俣字田代46-3	0.50	H 9	雪害抵抗・交雑39ｸﾛﾝ
秋(県単) 1 6号	由利本荘市西由利原166-1内	0.90	H1 2	精英樹・交雑30ｸﾛﾝ
東耐雪秋県 1号	横手市山内大松川字大森沢53	1.00	S 6 0	雪害抵抗(さし木)43ｸﾛﾝ
東耐雪秋県 2号	雄勝郡羽後町上仙道字上会134内	1.50	S 6 1	雪害抵抗(さし木)56ｸﾛﾝ
東耐雪秋県 3号	横手市山内大松川字向大台2の内	1.50	S 6 2	雪害抵抗(実生)32ｸﾛﾝ
東耐雪秋県 4号	横手市山内大松川字向大台2の内	1.50	S 6 2	雪害抵抗(実生)33ｸﾛﾝ
東耐雪秋県 5号	大館市大子内字堂ノ沢56-3	1.50	S 6 3	雪害抵抗(実生)32ｸﾛﾝ
東耐雪秋県 6号	大館市大子内字堂ノ沢56-3	1.50	S 6 3	雪害抵抗(実生)33ｸﾛﾝ
東耐雪秋県 7号	仙北市西木上会木内字福田137-11他	1.50	H 4	雪害抵抗・交雑24ｸﾛﾝ
東耐雪秋県 8号	大館市田代早口字上越通27-3~42	1.50	H 5	雪害抵抗・交雑36ｸﾛﾝ
計	48箇所	56.13		

令和8年度
業 務 概 要

令和8年4月 発行

秋田県林業研究研修センター

〒019-2611

秋田県秋田市河辺戸島字井戸尻台47番地2

TEL 018-882-4511 (代表)

FAX 018-882-4443

URL <http://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/rinken>

E-mail forest-c@pref.akita.lg.jp